THE Y.W.C.A. MONTHLY

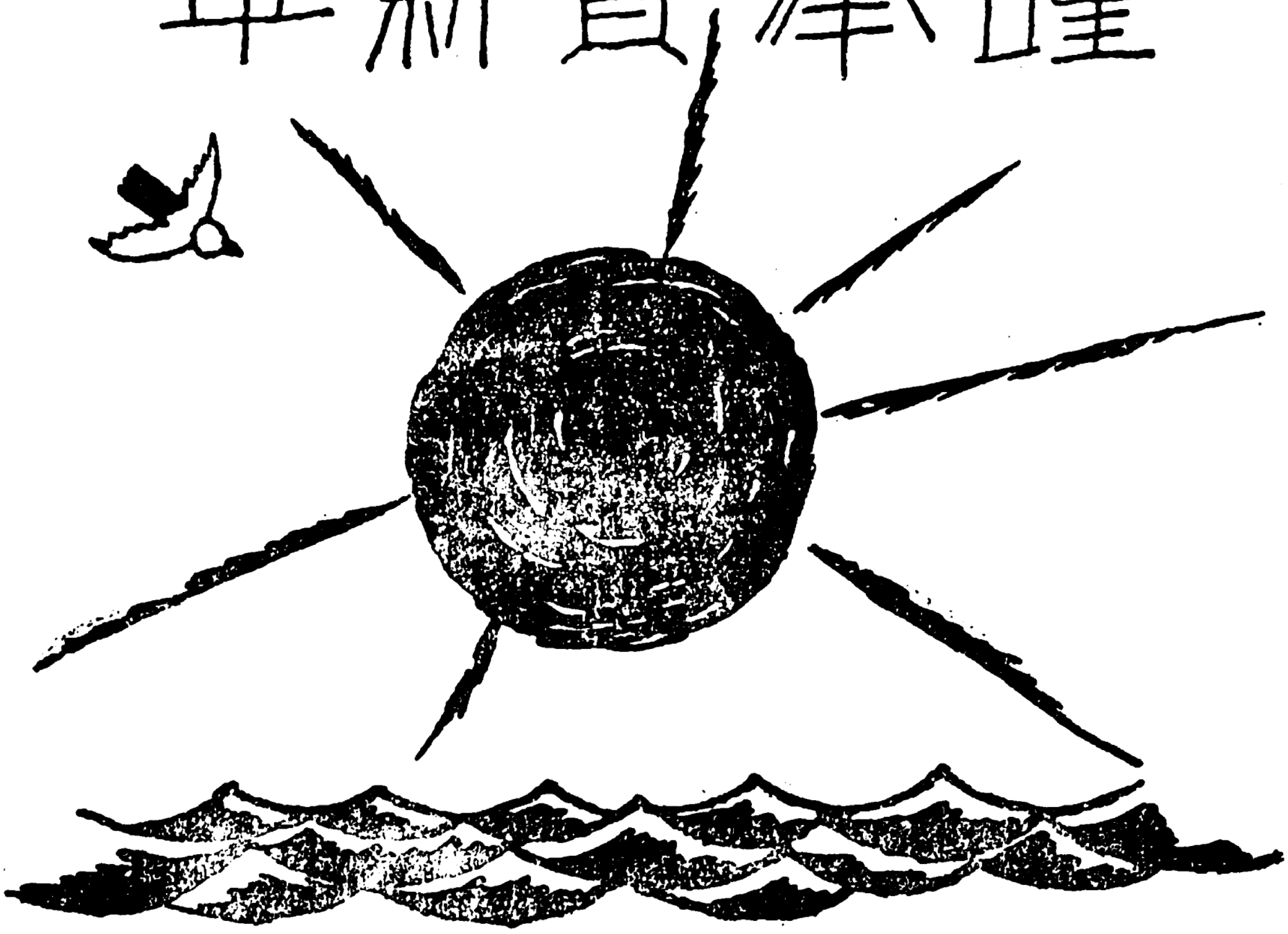
女子青年界

新年號

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十一年一月一日發行（毎月一回一日發行）
女子青年



謹奉賀新年



金言

希望と勉強とは繁榮に達する通路なり（西諺）

大正十一年正月元旦

本舖 森下博藥房

野邊地天馬氏著〔新刊〕

四六判三百六頁　クロース上製
定價壹圓八十錢　送料市内六錢地方十錢

傑作を出した人々

世界的に名聲ある藝術家の出世物語である、繪筆を揮ひ、ノミを握り、樂器に據つた人傑を描き、畢竟事の成否は、其の人の勤勉と努力の二つにある事を、それ等の人々の傳中に説いてある、收錄された二十四名士の逸話が、とりとりの興趣を帶びて展開されてゐる。

青少年の方々に推薦す

目次

【口繪　コロタイプ】

發行所　東京市麹町三丁目
振替東京七八四七
丁未(ていび)出版社
電話九段六六〇
出版書目進呈

女子青年界目次

第十九卷 第一號

大正十一年 一月號

祝クリスマス
謹賀新年
東京基督教女子青年會
東京市神田區北神保町十四
委員幹事一同

祝クリスマス
謹賀新年
横濱基督教女子青年會
横濱市本町通六丁目八十四番
幹事
横澤つぎ子
ミスベリー
ミスアーレン
日比忠子
西茂子
安田曾代子
長谷川淑子
委員一同

祝クリスマス
謹賀新年
神戸基督教女子青年會
神戸市下山手町三丁目三十五
委員幹事一同

祝クリスマス
謹賀新年
京都基督教女子青年會
（準備中）
京都市一條通室町西入ル
幹事
ミス、ページ
ミス、ベスト
ミス、ワイザ
林アキ子
鈴本欽子
委員一同

祝クリスマス
謹賀新年

大阪基督女子教青年會
大阪北區天滿橋筋一ノ九九
委員幹事一同

謹んで新年の御祝を申上げます
昨年中は特別の御愛情を賜はりまして厚く御禮を申上げす。尙ほ本年も御引立の程を御願ひ申上げます

女子青年界印刷所
三成舍
前川吉治郎

祝クリスマス
謹賀新年

女子青年會中央委員長
井深花子
東京芝區白金三光町三四六

女子青年會中央委員
ドクター、リード
東京市赤坂區靈南坂二三

同
今西糸子
府下池上市ノ倉

同
松岡鎭枝
東京京橋區五郎兵衛町一

同
長尾なみ
府下代々木中山谷二八九

同
志立タキ
澁谷一一六五

祝クリスマス
謹賀新年

女子青年會中央委員
永島博
東京京橋區明石町
聖路加看護婦學校

同
長谷川喜多子
芝區白金三光町三五七

同
三谷民子
麴町區上二番町女子學院

同
ミセス、ハナフオード
芝區明治學院

同
ミセス、フエルプス
麴町區富士見町五

同
青木豐子
千葉縣市川在館野

祝クリスマス
謹賀新年

女子青年會中央委員
田中正子
青山南町六ノ一〇八

同
長谷塲政子
神戸市山本通五丁目八一ノ三

同
山田千代
神奈川一本松捜眞女學校

同
野村美智
横濱市本町一丁目

同
川戸環
東京市麴町區上二番町
四〇番地

同
藤田てい子
新旅順關東廳官舍



プラトン萬年筆
何時までも削らずに書ける專賣特許の萬年鉛筆
プラトンシャープ鉛筆
一圓以上數十圓迄
技巧が良い……体裁が良い……持ちが良い……何よりも其のペン先が良い
日本文具製造株式會社製造
中山太陽堂文具部發賣

女子青年界 第十九卷 第一號 大正十一年一月一日發行

より善き歳を迎へん爲めに

河井道子

大正十年を懺悔と感謝の中に送ると共に大正十一年を神の御恩寵の下に迎へ、今年をば光榮ある歳、恒久の平和、人類の福祉を樹立する歳、國民個人の靈魂教化の盛隆の歳とならしめ給へとの祈と、其實行とを心がけ度いと思ひます。

古風な暦を見ますと、何の歳は吉とか凶いとか、何の日には禍があり何の日には福があるとか、さては何方向に旅行すると盜人にあふとか水難ありとか火災があるのと、其は〳〵緣起でみち〳〵て居り、人間が此等の因果には抵抗どころか全く支配されて居るのであります。從つて人間に何の責任もありません、自分は努力する必要もなく、又假令何かで失敗しても其は自分の罪でも過失でもなく、何歳故であるとか何日であるとかで諦めると共に、又己に來る僥倖は自分の實力によるが如くに取扱ふにせよ、他人が成功したり、幸福があれば其人の苦心や努力を賞することは露もなく、あれは當り年だとか、まぐれあたりだとかとして吉凶共に責任轉嫁を致します、如斯ことを私共は笑ひますが、然し又お互に不知不識の中に其傳説などを或點

までは信頼して御弊擔をやつてはゐますまいか。

自然界の現象である天變地異は人力の如何ともなし能はざるものであります、其中にも無暗と山林を伐木した爲に洪水を來し、扶殖もせずして樹根まで炭として燒きつくした禿山の怒を蒙むつた朝鮮國土の如きは人爲的に自然界の大變動を起した如きもありますが、大概の場合此天變地異は人間の力で停止することは出來ません。然し又人間の智能靈威がます／＼發展した場合には是等に抵抗し利用することの出來るやうになりませう。今爰に申上げ度いのはかゝる自然界の變動を申すのではない一般の場合から申しますと私共は歲月、日、等に緣起を持ち己が責任を此等に轉嫁させる如き愚を演じてはなりません、のみならず每年／＼世は進歩するものと信じ、又其進歩のため己の分を盡すべきであります。

故に年の改まる際には過去一年を反省し既往を顧み、來る年に於てはより以上成功と勝利とを來さんと冀ふは當然であります、學生ならば今年はよりよき成績を擧げ樣、やりなほさうと決心し、實業家は不振を挽回しやう、成功しやうと奮發し、敎育家、宗敎家はそれ／＼の立場に於て文化、敎化の希望を抱くのであります。かゝる點から考へて見ても世の中はたしかに一貫せる理想に除行しております、或人は是を否定し世は年々惡化の程度を高めると云ひ、其の例として近年に起つた樣々の惡風悖德を擧げますが、然し私共は是に贊同することが出來ません、年々歲々確に向上しつゝある事を信ずるもので又其樣にさせんと働くべきものであります、若しこの信仰がなく又其實例を體驗することが僅かづゝでもないならば、人間は何の爲に苦しんでも善を行はんと苦心するのでありませう。

十九世紀の英國物語などを見ますと飮酒は今日の日本一般の風習に酷似した點があります。をかしき例は饗應に客を招待しますと歸刻の際醉ひ倒れの客のコートには宿所姓名の札を付けられ數人づゝ荷物の如く馬

車に乘せられ、馭者が其家々に醉客を屆けたといふが如きは普通の事であつたと申しますが斯の如き狀態は只今英國の如何なる下層に於ても見ることが出來ないのみならず、萬一あつたとすれば世人が其の非を攻擊して再びかゝる失態を演ずる事の出來ぬやうに致しませう。

或は病氣について申しますならば五六十年以前の日本では疱瘡にかゝつた者があると恰ゝ麻疹の如く取扱ひ丈夫な子供等をなるべく患者の許に送つて感染させると重い疱瘡を免れると申したのであります、今日の衞生思想より顧みれば戰慄するやうな危險を平氣で犯して來たのであります。敎育上の近年の進步等此處に述ぶる必要もありません。然らば道德の點はと申しますと、歐洲大戰爭の如き未曾有の怖ろしき出來事があつたとはいへ中世紀等の戰爭に對する觀念には雲泥の差であります。殊に大戰爭の慘禍を實驗して世界平和を唱道する點になつた事は實にこれ精神上に於て除步とはいへ追々高調の現象であります。

一高一低の波瀾は一國にも全世界にもありますが滔々たる神の御旨と云ふ大勢より見れば必ず每年幾分づゝでも改善されつゝある事は信仰いたします。然しこの進步を助長させる爲には神と人との協約、共働が必要であるは申すまでもないことであります。

一體我々は其責任を如何なる方法に於て果して居るでせうか、是を年頭に於て思惟する事は大切なる事項であります。

今此處に賢者、智者はさておき、實に生甲斐もないと思ふ樣な人間に「汝も世界改善に有要なる材たるを得べし」といふ下命が神からあるのです、ひたすらに己れの無能無力を歎くもの、或は過去の失敗、罪惡を悔ゆるもの、或は逆境不運に泣く者に對し「我汝をたてゝ使人とせん」といふのが本當の宗敎であります。此の宗敎がある處、この聲の聞ゆる處には必ず復活があり、新人の甦生があります。

古代先哲が黃金時代を書く時は優勝劣敗論を骨子としたものですから、心身共に優良なるものだけの生存をゆるし薄弱者を破棄したものであります、若し世界が此の標準で今日に至るまであつたとするならば年々惡化の度を增すは必然の勢であります、然るに此の正反對に「傷つける葦を折る事なく煙れる麻を消すことなし」と絕叫して世の薄運兒の友となり、救主となり以て彼等を偉大なる人物に敎育されたのがイエスキリストであります、彼はたゞ過去に於てかくありしのみならず今も其の宣傳の聲が全世界の隅々までひゞきつゝあります。

一體葦などは風のまに／＼なびきやすいものであり、或は少しく風雲烈しければ折れ易く、鳥や獸に荒され易く、如何にも弱いものであります、既に何かで傷んだ葦であれば眞直には出來ません、根元なり中途なりにて折れかゝつておる樣な纖弱なもの、何の價値もないものですのに此を折りすてゝしまはず、大事にいたはつて其の折口を强くし給ふのが、神が葦の如き我々に對し給ふ御慈愛と救ひであります、「煙れる麻」といふのは昔麻を燈心のやうに用ひて居りましたが其の灯がほの暗く煙りかゝつておるやうな時でも是をふき消さず、だん／＼其の光を强くし室の內外を照して人の喜樂の中心になすやうに、神が我々の如き賤弱なものをいたわり育て役立たしめ給ふかをあらはしたものであります、然れば私共折葦の如き、又風前の燈火の如きものでも神にお托せするならば、神は此を以て必ず世を年々改造し給ふに御使用下さるのであります。折れたる葦は笛となつてよき音樂を奏することも出來、ほのくらき灯にても迷へる旅人を導く唯一の光ともなり得ませう新年にあたり皆々樣は此の眞理、此恩寵を熟思して大正十一年をより善き歲たらしめんと神と共に働くことに御勉勵下さらんことを祈ります。

一千九百廿一年の學生傳道義會運動

米國　ロバート、ウヰルダー

學生傳道義勇會運動は一千八百八十六年に開始されたものであるが、本運動の初期に、プリンセトンのゼエームス、マッコオシュ會長は、學生傳道志願者のことを書いて「ペンテコステの日以來如何國に如何時代に、現時我國に與へられしが如き生ける青年男女の捧げ物ありしや」と言はれたが、かゝる言葉の書かれた時は、本運動は未だ共存在も知られなかつたのである。マッコオシュ博士の言は預言的のものであつた。今日彼が生存して居らたならば、何と言はれるであらふか。

千九百廿年には、本運動の歷史に現れたるいづれの時よりかも最も多くの學生傳道志願者が外國に北米傳道會社の手から渡航したのである。其正確な數は五百九十五名即前年の二割五分增し、過去十年間の記錄より五割の增加で、彼等は七十四の異つたる傳道會社から任命されたのである。本運動の開始以來、カナダ及合衆國から渡航した者は八千七百七十二名で是を各國分けにして見ると次のやうである。

アフリカ	九四二
アラビヤ	三一
中央アメリカ	六三
支那	二七〇九
印度、ビルマ、セイロン	一七〇三
日本、朝鮮	一〇五二
ラテイン及ギリシャ歐州諸國	四三
メキシコ	二一二
オゼアニア	七五
ペルシャ	八二

フィリピン	二二六
シャム、海峡殖民地	一六七
南アメリカ	六二四
西部アジア	二八九
西印度	二四二
其他	二八二
計	八、七四二

今日外國に於ける、傳道運動の指導者には、學生傳道志願者が少くない。例へば支那のミセス、フレーム、日本のミス、シャーロット、デフォレストはそれである。本運動の影響をしらべるにあつて、言はずに居られない事は、我國の傳道幹部の幹事中五、六十人の立派な卓超せる傳道指導者が學生傳道志願者であることとである。

今日の傳道志願者の指導者たるの精神的資格について屢々質問を受けるが次の實事は現在の志願者が前から働いて居た人に、能力に於て劣らず、また相當の尊敬を受けて居る事を示してくれる。北米大學から千九百廿一年に卒業した者の内十人の内三人は大學の、學生基督敎團隊の役員として奉仕し、十人中一人は大學基督敎會の會長となり、婦人十人中八人及男子十人中五人は日曜學校を敎へ、十人中三人は市の傳道或はセトルメントの經驗を有し、又男子十人中三人は敎會の牧師をして居る。

學生傳道義會運動は、傳道敎育に眞の貢献を爲し今猶なしつゝある。昨年中二百七十一の會からの報告によれば、宗敎研究の組七百八十一、在籍者男女混合で一萬九千二百八十九人である。二十二の學校は四千五百八人の出席者のあつた國際及傳道問題討議の「世界問題會」の報告をし、六十八の學校は、本運動で用意されたポスター展覽會を催し而して二百六十の學校は本運動の暗示を受け獨創的のポスターを作つて此傳道敎育の方法を採用した。敎育部幹事は大學新聞を傳道機關に利用するやうすゝめ、百七十五の學校では此方法を有効に發展させて居る。二百三十の大學校は傳道書籍を個人的に讀む傾向を

増進させた事を報じた。今や傳道敎育は、敎會にも廣く採用されて居るが、學生傳道義會で始めたか丶る自由研究の先驅者は D. W. Lyon 氏である。彼が支那に行くや、ハーラン、ビーチ氏は彼の後繼者となつた。彼は其後十年間學生傳道義會の爲に盡した後北米に於ける有名な大學の一つのエール大學で傳道科敎授の最初の椅子を示した。彼につゞいてゼー、ローブエル、モーレイ氏は過去十五年間本運動の敎育幹事として仕へてゐる。

大學に於ける傳道運動が成功するや、敎會に手を延やうとしたがしかし其努力は主として學生の間に限る事とする筈だと感じて居る。しかしながらウイメエンスボードの傳道聯合研究の中央委員會も、傳道の敎育運動も本運動に其起原を負ふのである。婦人間に傳道研究を起したのもビーチ氏である。

學生傳道義會運動は、傳道に力を入れる點に於てキリスト敎會にとつて力の源である。昨年學生は、敎會の理事を通じて、內國及外國傳道の爲に前年の十三萬五千九百十九弗に對して廿四萬五百五十弗を寄附した。職員を送つた事は此中に含まれてない。斯樣な寄附をする事は、大學に於ける本運動の大なる仕事で、其結果として、數千の學生が、組織的適當なる贈與の習慣をつけられて居る事である。米國で外國傳道に最も大な貢献をなした一人は、學生傳道義會の旅行幹事の感化を受けた人である。同じやうな例はいくらもある。

本運動が專門學校、大學校の精神生活に貢献した所は計り知られない。今日學生は以前の如く其考が地方的でなく、世界的になつて來た。世界の事にか丶る興味を惹起したのには、本運動が預つて力あるのである。それは主として學生傳道義會の旅行幹事達の話、宗敎研究、討論團、目を惹く廣告ビラ、本運動の特別な敎科書及修養會等によることである。今日の大學には、物質主義及狹義の愛國主義の精神に反對する感化を及ぼす、無我及世界的同情の精神がある。傳道地に於ける福音研究の勝利は、キリス

ト教にとつて力ある辯證となる。比較宗教の研究はキリストの單一(ユニテイ)なることを示してくれる。本運動の標語「現代に於ける世界の福音傳道」はキリスト教學生の信仰をどんなにか刺戟して居る。精神的合同同じ目的の爲に協同して働き、神に、より深く信頼するの精神を人々はつくられつゝある。

學生の仲間に敬虔(けいけん)な傳道志願者の感化の大な事は誇張し得られぬほどで、彼等は、傳道熱と等しく、精神力の生産者である。年々に旅行幹事達は大學に最も顧みられない地に勇敢な奉仕をするやうキリストの召をもたらして居る。或る州立工藝學校の一生徒がある幹事の話を聞いて其後で言ふのには、彼の生活の中には、まざ〳〵として眞實があつた。自らが生活しつゝあつた狹い生活ではとても滿足の出來ない奉仕の非常な熱情があつた。かくて自分の生涯の仕事の問題を不可抗的に定めざるを得なかつたと

學生傳道義會運動は毎年一千の高等教育の學校を啓發するものと豫期されて居る。此仕事の爲に現在十六人の男女の幹事がある。合衆國及カナダで開かれた三十七の聯合學生傳道義會修養會の感化を受けたものが一萬人あつた。

此の運動の仕事の結果を如何に說明さるゝかとの問を屢々受けるが、此事を多く思ふ者ほど、收獲所に働人を送り給ふ收獲の神に忠實に交つたキリストの熱心な僕の祈が唯一つの力であるとの自覺に一致するのである。指導者は此事には迷ひなく働いて居る。非キリスト教國への學生傳道志願者の需用は生ける神の靈が彼等の心を動かし、神の彼等になさしめんとし給ふ事が明になる其召に答へる男女によつて充たされるのである。是れは人力以上の仕事である。「故に爾等收獲の神に祈れよ」。

(ニューヨークのウイルダー氏から先頃御親切にも日本の姉妹方に興味があるかも知れないからとて御送り下さいました報告の大略を譯して御招介申上ました。K、O)

感想斷片

二階堂眞壽

×

天香氏の「懺悔の生活」に恁んな句があつた。

「人を凌いで生きることは凌がれる全體が死ぬことだ。全體が生きるなら自分が死んでも本懐ではないか。われらは水面の泡のやうなもので、その泡に執着するのは全體たる水を知らぬ爲めである、死んだとて何物も消え去るのではない。悟れば全體が自分である。宜しい死んで仕舞はう」この句は西田さんのよい方面を現はしてゐるよい句だと思つた。一讀した時に、「凌がれる全體が死ぬことだ」の意味が明瞭しなかつた。あとの方を讀んでゐるうちに、判つた。それは「全體が」の上に「自分にとつて」といふ一句を挿入してみればすぐ判るのである。

自分が利己的に全體から孤立すると、無論全體は生きてゐるのであるが、自分にとつては全體が死んだものとなるのだ。

「生きようとするなら死ね」

「死ぬとはどんなことだらう」

「葡萄の枝が樹に連ることだよ」

「連ならなければ死ぬぢやないか」

「連なれば狹い自己といふものが死ぬのさ。死んだとて何物も消え去るのでない」

「悟れば全體が自分か……」

「然だ。然だ。だが君はまだ判つてゐないらしいね」

×

ひからびてゆくやうな生活。それをも知らぬやうな生活。乳呑兒のやうに育ちたい。

×

私はキリストの奇蹟を信ずるとも信じないとも言へない。なぜならほんとうに信じてゐる人なら、キリストの奇蹟をやれる筈だから。

　われを信ずるものはわが業を爲すべしである。然しまた自分が奇蹟をやつてみなければ信じないといふのは眞の信じ方でない。またどんなに偉大な使徒でも奇蹟をやらうとする意志があつては神を試みまた自分の力をたのむものである。そんな人には奇蹟は出來つこがない。

　奇蹟は恐しく純な、恐しく愛が深くなつた極點に於て自つと起るものであると思ふ。キリストがラザロの墓場で身を顫はしてなかれた場合のやうに。

　それ以外の奇蹟は人がやつてもまた自分がやれても信じない。

　神癒的療法などで死人がたとひ甦つたとしても、それよりはある日曜學校の教師が、仕様のない惡性質の子を、ほんとうにどうすればよいのだらうと、無言のまゝ抱き締めて、ぼろ／＼と涙を溢した。それからその子が善良になつたといふことを聞いた。私はその方をより大い奇蹟だと思ふ。

×

　神の代りになつて、誰か心のおそろしく清い人が私の頭の上に手を置いて、私の罪を免して呉れたら！おゝそんな人が何處かに居ないかしら。

×

　今日は頭が少し變だ。頭痛もする。夕べ一晩眠れなかつたからだ。然し不思議な空想が心に泛んでくる。――心には空のやうにあやしい思想の雲が湧いてくる。

×

　この世の幸福を厭ふ人達を私は知つてゐる。その人だちの美しい性格。

×

そゝがれし涙空しく土に消えて草とも生へよ花は咲かずも。

×

與へて、與へて、與へぬいて、そして殘るものが自分のものだ。與へようと思つてゐてもどうしても與へ得ぬものが自分のものだ。

×

火傷した子は火を恐れる。

×

ある少女が切角丹誠して拵へた奇麗な人形の顔にみつともない目鼻や恐いやうな口を人から描いて貰つて泣き出した。しかし泣きながらその人形を抱いてゐるいぢらしさ。

×

黄葉した銀杏の葉が路も狹に散つてゐるのが美しくてたまらない。みんな拾ひ集めて懷ろに入れたいやうな氣がする。

×

私の一番嫌ひなものは虐げられてゐる弱いものをみてそれを助けずに、虐げる強いものに加はる人である。

×

肉の香を嗅いだ藪蚊がつぶされ損つてもまたすぐやつてくる。

×

「背負した子を三年尋ねる」傘が見えないと言つて探し廻つてゐたら、手に持つてゐるのであつた。

×

おまへの手は味噌漬け手だから指環なんかはめたつて駄目だ。

×

肉體の生成のやうに、樹木の肥るやうに發展せよ鍊瓦を積み重ねるやうには發展するな。

×

神とは何んぞ。愛だ。理窟をぬきにして、何んでもよい、眞劍に愛してみれば神がわかる。

×

あの人はいぢめられるほど優しく親切になる人だ

×

あとで眞實のこと言へばよいと思つて虛言をつく人は、舌を剪られてあとでほんとのことが言へなくなる。

×

十字架は飾り物ではない。それをさげて歩くといふことは。何時でもいさぎよく殉教するといふ表示である。

ドストイエフスキーの宗教觀

村岸清彦

一

多くの評家は、ドストイエフスキーの偉大なる理由を、彼の藝術的天分に覓める。併し私は、彼の眞の偉大をその藝術家たる點に於てよりも、寧ろ彼が驚異す可き「愛の人」であつた處に見出したい。而して、彼をして「愛の人」たらしめ、かくて彼に眞の偉大さを加へしめたものは、實に彼が泪を以て不斷に終始した所の宗教であつた事を想起し度い。

一體、彼の人格や藝術は、彼の宗教から離れては存在しなかつた。換言すれば、彼の人格は彼の終始した宗教的經驗の結晶であり、又その藝術は彼の體驗味到した宗教的眞理の具表であつた。そこで私をして更に適言せしむるならば、ドストイエフスキーを以て「宗教的に生活した人」と謂ふよりは、寧ろ「彼自身が宗教そのもの」であつたと言ひたい。まこと宗教は彼の感激であり、生活の全部であり、根柢的生命であつた。

二

ドストイエフスキーが生涯を以て生き通した宗教は、言ふ迄もなく基督に依て體驗された「愛の宗教」であつた。とは言へ、夫れは彼のトルストイが五十歳の轉機から、只管追ひ求めて而も遂に體得し得なんだ「愛の宗教」とは、自ら區別されねばならぬ。

すなはち。彼はト伯が教說の根基となした「愛の宗教」を其儘に生き通したのだ。ト伯が生涯泪ぐましい努力の對象としたイエスの宗教に、彼自身生れ乍らにして生き得たのだ。詮り、彼はト伯が到達したいと躁搔き焦つた所の「理想」から出發し、且ト

伯が恒に矛盾に惱み續けてゐた「生活」を、不思議に調和のうちに活きて行つたのである。ト伯は人間的に惱み拔いて「愛の宗教」を追求したに反して、彼は聖者的な忍苦の惱みを以て「愛の宗教」に終始したのだつた。だから同じ「愛の宗教」と言ふも、ト伯のは「理想としての宗教」であり、彼に於ては既に彼自身の生活に飜譯された「生活としての宗教」であつたと云はねばならない。

斯うした「愛の宗教」への眼醒は、果して何時頃から彼の裏に萠して居たか。ロイドの言に據れば「十七歳になる若き工科の學生は、既に智性よりは心情に生ん事を知つてゐた」のである。ドストイエフスキーの斯の如き洞察と傾向とが、その頃の彼の宗教的生居に同じ樣な洞察と傾向とを與へないとは何うして考へられやう。かくて「心情に生きやう」として努力しつゝあつた彼は、廿九歳の時に計らずも虚無黨員だと睨まれて捕へられた（全くの寃罪であつたに係らず）。牢獄は往々心靈の最善な敎室である。そこで彼は、「四年間を通じて唯一冊の書を幾度となく反讀した」と傳へられてゐる。而してそれは實に新約聖書であつた。まことに「心情に生きやう」とする心が、四年間唯一冊の聖書に浸り通した事は、明らかに神の攝理であつた。ドストイエフスキーの光榮ある「愛の宗教」は、その時分から眩しい程の光輝を以て耀き出でたのである。

三

ドストイエフスキーの神は、ト伯の如うに汎神的であつたが、人の個性を假相とせずに（而して之は汎神論の陷り易い大なる缺點であるが）飽迄實有だと觀た所に、彼の特異の點がある。彼は神を人間の心に探り、其處に神の姿を見出でた。彼に取つては、神とは人間の心の奥深くに潛在するものであり、思索の形式や概念の補助を借りる必要のない、人心に先在する所の光であつた。夫れは又總ての人間に存在する光で、從て人間は此光の宿る神殿なのである光は凡ゆる人間の裡にある。如何に賤しく見える

人間——假令ば罪人や白痴や狂人や放蕩兒や零落した人々の心にも確かにある。仍で彼は慈眼に涙を湛へながら、醜い惡人にも「冷い石をも温めてやらうとする憐みの心」あるを見當てた。奈何醜惡な人の中にも、「善良の魂」のみは未だ傷けられずに潜んで居るのを見た。彼は云てゐる、「私は山賊の心にすら魂の偉大な者に一再ならず接した。」又恁うも言てゐる、「囚徒は野獸でない。恐らく私より優れた人間である。過る數ヶ月私は斯かる事を幾多經驗した」と。慘めな淫賣婦のソニヤの濁つた肉體の裡にも、「まあ人間を虱ですつて」と叫ぶ丈の人道的な宗教的な心の躍つてゐるのを、彼は決して見逃さなかつた。

評家のウオルコンスキーは、ドストイエフスキーの然うした態度に就て次の樣に云ふてゐる。ド氏の作品中の人物は、悉く狂人や癲癇や自殺者や犯罪者や辱められた者や虐げられた者のみだ。なぜ彼は斯樣な者ばかりを取扱つたらう。蓋し人間は何れ程落魄ても、決して天與の淸淨さを失ふものでない事を叫ばん爲めであつた。又も一つには泥土の如く穢れた者の中にも、尚一滴の澄切つた水晶が潜んでゐる事を明示して、社會から投出された悲慘な不幸な人々に無限の慰藉を與へん爲めであつたのだ、と。

四

神が總ての人間の心に宿つてゐると觀、從て神を宿す人間の心の如何に尊貴たものであるかを識つたドストイエフスキーが、軈て人間心靈の不滅と云ふ信念に導かれたと言ふて何の不思議はない。實に彼に取つては、神の人心に於ける內在と、靈魂不滅とは相即不離の眞理であつた。「人の魂及び魂の不滅に對する信仰がなければ人は生きられない。自殺者には、この信仰がないのだ。人の本當の生活とは、この確信に基く生活を指すに外ならぬ」と彼が言ふたのは、決して過言ではなかつた。まこと彼は、魂の不滅を信じたればこそ、「人間の不滅性」を愛の對象として生き得たのではなかつたらうか。

「人間の不滅性」——然らば、唯これあるが故にのみ、只それを確信し得たるが故にのみ、彼は善人をも惡人をも、權力者をも無資產者をも、健やかな者

をも病者をも、いと公平に熱愛する事が出來たのであつた。而して打算からでなく、全く人の心に潜む「不滅なる人間性」を信ずるが故に愛すると云ふが彼の愛であつた。かくて彼の愛をして「偏愛」(假令ば貧民のみを愛して富者の魂を愛せぬ如き)より救ひ出したものは、實に斯うした「人間不滅」の信仰であつたと云ふ事が出來やう。

五

ト伯の力說した愛が絕對であつた樣に、ドストイエフスキーの生きた愛も亦絕對性を帶びてゐた。併し愛の絕對性と云ふても、夫れに直ちに哲學的評價を加へる事を愼まう。而して私は飽迄至純な吾人の常識が許して吳れる範圍で、愛の絕對性なる語を使用したい。

さて愛は絕對的であらねばならぬ。斯うした心持を、彼は「カラマゾフ兄弟」中の長老ゾシマが臨終に際して愛弟子アリョーシアに對して與へた訓誡に於て語つて居る。「……人間を裁いてはいけない。謙れる愛は、暴虐よりも優れる力だ。生きて働く愛のみが信仰を齎すのである。人を愛せよ。而して罪を氣にかけるな。罪ある人を愛せよ。神の一切の創造物を愛せよ。又「他人の煩を庇つてやれ。自分よりも隣人を愛せよ。然うするのが利益になるからでない。然うするのが、燃ゆる情感の命令だからである」これを愛の絕對性と云ふて、何の不可があらう。而も爰に現はされた愛の絕對性は、イエスの山上の垂訓(馬太傳五〇三八―四八)に示されてゐる愛の絕對性と、何と云ふ純美な合奏をなしてゐる事ぞ。

深い愛の思想は、人の深い魂の裏から泪と汗と而して血とを通じて湧いて來るものであつて、決して思想的の戯れから溢れるものではない。基督の「敵を愛せよ」と云ふ教訓は、まこと彼が敵を實際に愛してゐる事實から叫ばれたものであつた。而してドストイエフスキーの愛の讃美も亦、運命と社會とから、惱まされ虐げられ苦しめられ乍ら、而も總てを恕し事毎に忍苦し、一切を愛して生きた事實から謳ひ出されたのであつた。無論、彼の愛には「我汝等を愛すれば、益々汝等に愛せられず。されど我汝等の爲めに財と身を盡すべし」と叫んだポーロの淋しさがある。然しドストイエフスキーの愛の寂しさは、却てよく彼の愛の絕對性を現はして居る樣に思ふ。

六

よし彼が絶對愛の所有者であつたとしても、「絶對忍苦」の英雄でなかつたとしたら、「ドストイエフスキーらしい」大部分を缺如した片輪者になつたらう一體、彼ほど苦痛に堪へ、苦惱を讃美した文豪は尠い。慥かに彼は、ロマン・ローラン流の英雄より遙かに上席に坐すべき人であつた。又彼の顏ほど痛々しい、惱ましい、而して淋しげな相貌を持つてゐる者も他に見當らぬ。斯うした寂寥と悲慘との相貌は、實に運命に忍從した彼の雄々しい心其儘の表象ではないだらうか。

「人は苦しまねばならない。痛苦を忍んで心を磨き自我を空しうするのだ。人は獄裡に於てすら辛棒を學び得られる」と、彼が「死人の家」の中で言ふてゐるのは強ち瘠我慢や負惜みの言とは斷ぜられない。彼は長老ゾシマの口をして言はせてゐる。「お前は多くの敵に出逢ふだらう。然しその敵を愛するに違ひない。今後お前の生活には不運が附纏ふだらう。併し其お蔭でお前は幸福になる——」。彼に依れば凡ゆる刑罰ですら、人々の考へる樣に、人を虐げるものでなく、却て人を和げるものなのだ。「心靈は嵐の夜に咲き出でる」。だから彼は、いぢらしい程素直に、痛苦に依ての外、自己淨化の道はないと信じて、凡ての苦惱に泣き乍ら、然し感謝して默從した。かくして彼には、一家の不運も、理由なき捕縛も流刑の苦難も死刑の宣告も、慘めな赤貧も、痛ましい病患も惱ましい失戀も凡ては其儘感謝であり、笑を伴はざる歡喜であつた、宜忍苦は、彼に於ては美はしい德であつた。

七

私の愛するドストイエフスキーは、又何と云ふ深い鋭い良心の所有者であらう。傳記者ロイドは曰ふ「ト伯の犯罪者に對する憐憫は、道德家としての憐みであるが、ド氏のは道德的でも藝術的でもなく、全く共犯者としての同情である」と。曾て「犯罪者中に、自分より優れた善人がある」と叫んだ樣に、

彼は又「自分の衷には犯罪者よりも更に惡い所がある」事を忘れなかつた。又彼は「自分が惡人だと認むるばかりでなく、人類の罪にも責任がある」事を認知しないでは居なかつた。だから彼は、凡ての惱める者に對して、君臨的に「汝等」と呼ばずに、「我等」と呼び得たのであつた。爰に凡ての人間の惱みと苦しみを生きる、「苦惱者」としての博大な愛と、鋭い良心とが働いてゐるのである。

メレジユコフスキーの評言は正しい。「ツルゲネーフは自然と人生とを調和せしめた。ト伯は人生を高い講壇から說いた。然しドストイエフスキーは右の二作家よりズツト吾々に近い。彼は吾々の恐しき冷たい町に於て、我々の間に交つて住んだ。彼は復雜な近代の苦痛と病から逃れず、而して吾々を友とし同等者として愛する」。――「又彼は病氣の時の友であり、惡運の時の同僚である。即ち彼に共通の弱點がある事が、吾人をして彼に親しませる」。

凡ての人類と偕に惱み苦しむ者、多くの罪人と共に罪ありと感ずる者、貧しき病者と偕に病める者、幾億の民衆と俱に貧に虐げられたる者――これ實に我が愛するドストイエフスキーその人である。宜、彼は「人類苦を苦しむ事に依て、人類を熱愛した基督」の御旨を最もよく體得した近代的使徒であつた

八

一通りドストイエフスキーの宗教觀を瞥見した積りではあるが、猶何うしても除く事の出來ないのは彼の救濟に關しての意見である。彼に依れば、奈何罪人でも、本當の懺悔を爲しさへすれば救はれぬ者と云ふものは無いのだ。詰り眞からの懺悔――これが罪人に與へられた救ひの道なのである。

彼は然うした「懺悔の思想」を、長老ゾシマの口を借りて恁ふ言つてゐる。「心配するな。神は何も彼も赦しなさる。此世に本當に悔改めた者を赦し得ない樣な罪はない。人は神樣の無邊の慈悲を汲み干す程の大罪はなし得ぬ。だから只懺悔しろ。絕えず懺悔しろ。恐れるな。神樣は想像のつかぬ程、お前を愛

してゐられる。神樣は罪ある御前を、罪と一緒に愛して下さる。昔から云ふ樣に、十人の正しい者よりも、一人の罪人が悔改めた方が天國の喜びは大きいのだよ。」

さらに、「罪と罰」中のソニヤが、情人のラスコルニコフを恐ろしい罪感から救ひ出さうとして、涙に濡れた目を輝かし、愛人の肩を掴み乍ら言ふた言葉は、矢張ドストイエフスキーがゾシマの言辭に盛つたと同じ思想であつた。ソニヤは云ふ「直ぐに御出でなさい。タッタ今、一番近い街中へ、而して身をひれ伏し、貴方が汚した土に接吻しなさい。そして四方に跪いて聲の限り叫びなさい。私は殺人者ですと。然うすれば、神樣は平和を惠み下さいます」。かくして大罪人を表徵したラスコルニコフは、遂に戀人ソニヤに指示された通り、懺悔に魂の行きつく可き場所を認めて、而して告白と悔改とに於て、始めて積年祈求して得なかつた心の平和を獲得したのであつた。これに於て、彼は明らかに、懺悔が救濟に於て總てである事、而して眞の懺悔の可能である事を語つて居ると思ふ。

九

所でドストイエフスキーが、何故その救濟觀に於て、基督に有る可き筈の位置を與へなかつたかとの疑問が起るが、私にはこれに對して確答すべき何等の材料を持合はせない。併し、僅かに私の言ひ得るところは、彼が救濟觀中基督に處を得しめなかつたのは、基督の救ひを蔑視疎外したが爲めではないと言ふ事である。否彼は、愛に於て、忍苦に於て苦惱感に於て、キリストに如何に多くを負ふてゐる事か

仍で序に、私は彼が基督に對して捧げた讚辭を錄して、この拙い稿を結ばうと思ふ。

「神のない良心は怖ろしい。遂には大なる不倫に陷らねば止まぬ。されば道德を以て、心の光とするのは不充分である。まこと心の試金石は基督であらねばならぬ。即ち予に取つては、基督が道德の規範であり、理想なのである。(一九二一・十一・十三)

大歡喜

——Traherne: "The Rapture"——

齋藤勇譯

心地よき幼な心よ、
天上の火よ、聖なる光よ。
げに美はしく、さやけきかな。
世をあげて讃めたとふる
われはげに大いなるかな
天上の喜びよ、
わが有てる、偉大にて
且つは聖なる祝福よ。

かくも大なる喜びを
誰れがわが手に與へたる。
九天はわれをともす。
遣(つか)はしたるは神にいませば。
御名をほめたゝへんと
星は動きめぐり、
燃ゆる太陽(ひ)は神の愛をぞしめす。
神々し、 われはげに。
すべてこの神聖なる富に、
この生命に、 この健康に、
誰れかのぼせし。 これらを
わがものとせしは誰ぞ。 誰がきよき手ぞ。

ヱス傳概略（其二）

イエスの奇蹟

武本喜代藏

基督教は奇蹟の宗教です。奇蹟で始まり、奇蹟で終つてゐます、奇蹟を一切抹殺して了へば餘す所幾許でせう、馬太は卅二ヶ所、馬可は廿三ヶ所、路加は廿六ヶ所、約翰は一番少くてたッた九ヶ所丈け擧げてゐます、今其種類を三つに分てば左の如くです

（一）個人の肉體に及ぼせる奇蹟　癱瘋、熱病、血漏盲、啞、不具、癩病、更に三度死者を蘇生せしめた、ナインの村の少年、ヤイロの娘、ラザロ等であつた。

（二）個人の精神に及ぼせる奇蹟　鬼を追ひ出す、惡魔持ちを治す。

（三）自然界に及ぼせる奇蹟　波の上を歩み、風波を靜め、五のパンで五千人を養ふ、水を葡萄酒へ化す、無果樹を咀ふて枯す、大漁、

神の人格的能力を其儘信じた古の人々は、毫も福音書の記事を疑ひませんでした、却て之れに依つて信仰を温めました、彼らには神は自然界の法則のやうな冷い、窮屈なものではなく、活きて、自由に働いて被入る靈活の神とのみ強く感ぜられたからです何らの理屈も、疑ひもなく、只ありの儘に主を信じ、其生涯の奇蹟異能を受入れ、更に同様の、否それ以上の大奇蹟も今後再び起るであらうと信ずる人

々は幸ひなる哉です。彼らには遠大の希望があります、ビジョンがあります、昔の豫言者達のやうに、新約時代の使徒達のやうに、現下當面の境遇より拔出して、遙に神の世界を望んで歡喜に躍るからです

所が近世に及んで異論が起つて來ました、奇蹟は自然律に反する、神の法則を犯すものだ、從つて福音書中奇蹟の大部分は、恐らく比喩か、後世の附加であらうと、かう考へるやうに成つて來て、單純な信者の信仰は動搖して來たのであります。

哲學者スピノザは「神則自然」を主張し、自然界は神の整然たる法則で支へられてゐるのだから奇蹟は自然への反逆だと申しました、ヒユームは「人間悟性論」中に第一奇蹟の承認は自然法の破壞である又奇蹟には證據が不充分だと云ひ、パウルスや、シユトラウス等何れもエスの人格事業の内に、少しでも超自然的要素を殘しては成らぬと主張しました。

所謂科學萬能時代、唯物論全盛の時代には、一時誰も彼も自然法を過大視し、原因結果〳〵で、宇宙は只もう何らの自由もなく、自然法てふ鐵鎖でしばられた場處のやうに思ふてゐました、人格的神の存在を疑ひ、此宇宙には人類が未だ其秘義を了解し得ない法則の上にも又高い法則のあることに氣付かなかつたのです。

所が近頃に到つて世界の思潮は急に心靈的、神秘的方向に傾いて來て、奇蹟に對する考へも次第〳〵に變化して來ました、曾ては根據なき信と思はれた福音書中の奇蹟に付ても、更にモ一度考へ直さねば成らぬ必要に迫られて來たのです。

宗教は絶對的、超越の世界で、信仰を以てのみ理解せらるべきです、從つて宗教が科學を裁判し、批判すべきもので、一時のやうに科學に依つて宗教眞理が裁判せらるべきものではないのです。神には今日の科學が未だ知らない澤山の法則があります、故に人智の今の程度で分らない事だからと謂つて直ちに夫は迷信だなど輕々しく云れた者ではありません

現に自然界にさへ多くの矛盾があるではありませんか、球を空に投て上げると謂ふ事は引力の法則に

沈してゐます、球は空氣より重いから上らない筈です、が併しヨリ大きな力を加へたら易々と上るではありませんか、毒薬を呑んだら死ぬるのが自然法です、併し解毒劑を飲んだら治ります、鐵は水に投ずれば沈下するのが自然ですが、軍艦や商船にすれば平氣で波上を走つて往きます、キリストが波を歩み給ふたと云のも、我等の未知の法則があつて、之を實行し給ふたのではないでせうか、こんな例は幾らもあります、從つてキリストの一切の奇蹟も他日其道理が明白に成つて、そが自然律に反するのではなく、却て自然法以上の更に優れた神秘な法則に依つてなされたのだと謂ふ事がハッキリ會得される時代が來るに相違ないと思ふのです。

自然法とは畢竟神の意志の發表です、此宇宙は冷たい鐵のやうな自然法に束縛された、不自由な場處ではありません、靈活なる、自由、活々した生命の世界です、故に神は或時期に、或必要に應じて或人格者を返して奇蹟を行ひ給ふのです、奇蹟は自然法の破壞ではなく、自然法の上の超自然法です、何れも神の無限の意志の自由敏活なる働きに過ぎないのであります。

以上の如く考へて來ると、キリストの如き驚くべき人格、神の子永遠のメッシャたるべきもの、生涯に吾人が今日其秘義を了解し得ない特別の奇蹟が行はれたかと謂つて何も怪むには足りません、否彼の如き場合に若し全く奇蹟がなかつたなら、却て不思議です。

こう云ふ譯で私は處女降誕も、復活も、昇天も、再臨も、又主一代のあらゆる奇蹟靈能が盡く事實として信じます、多少の文字や、句讀や、誤解や、書き落しはありませうが、大體に於て、我等の救と、生命に關する丈けの重要な記事には決して誤りはないと信じてゐます。

聖書は極正直にありの儘に、極正直な靈威に充たされた記者が書いたのですから、さう一々懷疑の眼を以て見るべきではありません、拜讀し、賞讀し、體讀すべきです、然らざれば何等利益もありません。私は讀者が頗ぶる敬虔な、空しい心で毎朝聖書を繙き、神の永遠の聖旨を悟らるゝやうにと祈ります。

讀書紹介

野の花

行く秋の光がさやかにさして居る午後でした私の友人が「心に求めて居つたものを與へられましたこれは淋しい病床に然し主によつて尊き戰をなさつて居る方から生れた詩集です眞に深刻な御生涯です」とかゞやく顔して私にもよめと進めて下さつた「試煉の日に」をぢつと座つて息もつかずに讀み終つたのです。

著者は其序に「私は歌人でも詩人でもありませぬ。私は私に與へられた試煉の日を病床で見詰めて居る病人に過ぎませぬ。

私は私にあたへられた運命と戰つてこゝまでたどり着きました。私は今振り返つて私の戰ひつゞけた戰を顧みる。何と云ふ愚な弱ひ戰ばかりであつたらう。しかしその戰がどんなに私の靈を鍛へ淨め私の心を深く高くしてくれたことだろう。」

夜の寶石　十七篇の中より

祝禱

「幸福であれ！
幸福であれ！
世界の總ての人々よ……。
惱める總ての人々よ。
あなた方の涙はもうすつかり數へられて居るんです。
神樣は！
かしこにあなた方のために、
幸福を滿てゝ居かれておらるゝのです、
其れを御覧なさい！
其れを信じなさい！
惱める總ての人々よ。
其れを信ずる幸福を得て下さい

其れを得る幸福を信じて下さい。
父と子と聖霊の名によりて
アーメン

クリストへ

我弱くつまづく、
愚に惑ふ、
我恐れたじろぐ、
我れしばしば
汝を知らずとこばむ。
汝は愛の御手擴げ「我に來れ」と呼ぶ
汝は愚なる我にのぞむ、
汝は「恐るゝなかれ」と云ふ
汝愛の聲もて
「七度を七十倍して許さん」といふ。
おゝクリストよ、
我が淋しき路に
汝を知りし
我は幸あるもの
おゝクリストよ
汝を知らずして如何にして我生くべきや、
汝を棄てゝ何處に我行くべきや、
汝を頼まずして如何にして我死すべきや、
おゝクリスト、
我が淋しき路に
汝を知りし
我は幸ある者。

貧乏の讃歌

貧しく生れしかば、
貧しさの尊さを知る、
貧しさは涙を教へ、
貧しさは淋しさを教へ、
貧しさは苦痛を教へ
貧しさよりこそ
今日もつゝましく感謝し、
つゝましく祈ることを

――我はまなぶ。
貧しさを見てあれば
しみ〴〵貧しさを
――讃へんと思ふ。

断章拾篇の中より

人生は短い
怠けたりごまかしたりすることは
この短い自分の生命を削ずる
ことでなくて何だらう。

或る宗教はほとんど現世ばかり説く
勇しく生々して見えるだらう、
だが未來がとかれなければ
どうしても
生れたかひの無い人間が餘りに多すぎる。

詩劇「兄と妹」の中より

俺は行かう。俺は迷つても祈らう。
俺はうたがひが起きても信じよう。
俺はさへぎられても進もう、俺は落ちても登らう
俺は弱い、
俺は出來ないだらうが行けるところまで行けばい
ゝのだ。
俺はまだ人生のほんの僅より歩いて居ない。
與へられた道、これからの道は無限に擴つて居る
嚴肅な、神聖な、惱みの生活が無數にある。」
クリスマスが近よりすべての心が主を仰ふがんと祈
つて居る只今不用意な私に著者の「眞劍な魂の惱み
の呼吸」が強くひゞいたのです。「絶えず祈りキリス
トに歸れ」と私も祈りてゆきませうひたすらに。よ
み度い方々のために。

「試練の日に」　定價　二圓
著者　京谷涼二氏
東京市神田區山本町三十番地
發行所　弘文館

誌友の欄

投稿歡迎

締切毎月十五日　編輯部宛

○　神戸　渡邊君代

クリスマスも近づき又今年も殘り少なくなりました嬉しいやら多忙やらでゐますが而し日々を樂しく元氣に送つて居ります。

中西姉の御手紙拜見致しました、有難ふ御座います希望に滿ちた日々を送つてゐらつしやる事をお喜び致します。只今はクリスマスペゼントの仕度で忙しゆう御座います。今年は男子の青年會と共に神戸市民の爲にクリスマス祝會を湊川で催します。賀川先生の御講演だの神戸市聯合聖歌隊も御助け下さいまして各教會からも御手傳ひ下さいます。其後で勸業館內でペゼントを致します。

私共は一同喜んで居ります、初めてこんなに皆(神戸市の各教會)と共に未だ神を知らない人の爲にするといふ事は幸ひの幸ひで御座います。一生懸命に祈つてゐます。嬉しくて／＼たまりません。

只今大呑先生は市民に差上げます、クリスマスカードを一心に書いていらつしやいます美しい可愛いクリスマス、ツリーとハレーの繪を、皆々一生懸命で御座います。

何卒此月の十九日をお覺え下さいましてお祈り下さい。二十一日には男子青年會館で兩青年會員を御招待してペゼントを致します。

(一二、九)

米國ニューヨーク　守屋東

各地のY・Wから非常な御厚情を受けて居ります。愛姉の御記名のある請願書はまた其時々それ等の姉妹によろこばれて御紹介にあつて居ります。御祈り下さいませ。

○　東京　宗像正子

昨今の御寒さことにきびしく御座候處先生には御障りもなく御機嫌よく居らせられ候哉伺ひ上候。扨私事去る四日男兒を出產致し善敬(ヨシノリ)と命名いたし候其後兩人とも肥立順調にて壯健に御座候私も今日にて丁度三週間たち申候まゝ床をはなれ申候。此度は男兒に候へば殊に自分の責任の重きを感じいよ／＼神様により祈禱をもつて養育致す決心に御座候何卒御祈のをり御記憶被下度願ひ上候。

○　信州旭幼稚園　河村咲子

前略突然の手紙にてさぞ御不審の御事と存じ候が先頃當幼稚園にて感謝祭を催せし所、野菜に添へて別金額集り候故誠に僅少なれど女子青年會のお働きの一部に加へて世界的救濟事業に用ひて下さらば幼子の爲にも幸ひと存じ子供等にも語りてお送り致す事に相成候間何卒御受け取り下されたく候。

當地青年會もお蔭様にて少しは形づくらるゝ樣に相成候間ます／＼努力してよき土臺のもとに發會式を擧げんものと存じなほ御指導の程願ひ奉り候會の各方面にお働き遊ばさるゝ先生はじめ皆樣の上に豐かなる御惠のあらん事を祈奉り候。

○　長野　旭基督敎女子青年會

先月は河井先生には御多忙中御來長、私共の爲に耳き御敎授を賜はりました事を厚く御禮申上ます、御蔭樣で日毎に基礎も固まり居る樣感じ深く感謝致して居ります。

同封の金子は誠に少額で御座いますけれども、女子青年界十一月の卷頭に先生の有益な

る御講話に感じ御事業の一部とも致したく御送り申上ました。益々會のため祝福あらん事を祈る次第です。

○

名古屋　金城女學校女子青年會

金城女學校女子青年會は萬國祈禱週を無事に終える事が出來ましたから御報告申上げます。祈禱會前二十分に役員及有志者の準備祈禱會を開き、本祈禱會には熱心にそして眞心から多くの人々のお祈があり有意義な會をなす事が出來ました。何卒お喜び下さいませ。

○

佐賀　SF

クリスマスが近まりましたのね、うれしくてなりません。祝福された日々を過してゐます。喜んで下さいませ、すべての人をすべてのものを愛しないではゐられない心で一ぱいで御座います。主によつて生くるものゝ幸を此頃はしみ〴〵感じてゐます。そして感謝してゐます。

御忙しいで御座いませうね主のために、神の國の建設の爲に、ほんとに働いて下さいませ。私も自分が光にあゆむだけでなく愛する周圍の爲に働をなさしめたまへと常にいのつてゐます。

○

淺井　治子

急にお寒く相成候へども御變もなく御活動に候哉私事お蔭様にて元氣に此頃は毎日ミセスウッドと共に工場の參觀をいたし居候何しろ大阪には、工場の數大小併せて一萬六千八百六十七有之、職工數は二十三萬人以上にて略々横濱の人口の半數位を職工が占め居るわけに候。之は府廳の統計にて男女合せての數に候。

今日迄に訪問いたせし工場は煙草專賣局、帝國製麻、大日本紡績等に候。專賣局には二千人の女工働き居候。最も熟練せるものは一日に一萬二千本を卷き得る由に候。實に人間業とは思はれぬ程の早業には驚入申候。

帝國製麻はミセス、ウッドが今日迄參觀せられし日本の工場中最も寄宿舍等の設備よろしき所の由、此處は女工千五百人、寄宿のもの七百人の由。

大日本紡績は其の大きさより申さば日本一かと存候日本全國に十三個所の工場を有し支那に二つの工場ある由にて、大阪附近丈けにても六ヶ所に有之候。昨日參觀せし尼崎工場は二千三百人の女工を有し、廣き土地と大なる建物の中に大仕掛の機械を据えつけ、誠に目ざましきものに候。工女の待遇は餘りよろしからず勞働時間は十時間にて夜業もある由に候。前述の帝國製麻は勞働時間九時半にて日曜日は一日休日に候。專賣局は九時間に候いづれも女工の爲修養講話、遊戲、體操等の試みは實行いたされつゝあるやうに候へども皆不充分のやうにて、私共の働に大なる餘地の存する事を見聞いたし候。若實際に働を始め候はゞいづれも喜んで私共の爲に道を開かるゝならんと、工場長、重役其他に面談せし折感じ申候。唯働の原野餘りに廣くしていづこより始むべきかを定むるが難事と存じ候。

土地の事には全く不案内なる私がミセスウッドを御案内いたして參る役目に候へば時々は滑稽を演ずる事も有之候へども先づ〳〵大した失敗もなく、喜んで勤め居る私の爲には誠によき機會にて之が爲め府や、市のお役人にも面會が出來、種々好都合に候來る土曜日十日午後には知事さんの官邸にて開かるゝ社會事業研究家の集會にてミセス、ウッド一場の講話をせらるゝ事と相成、私事通譯の大任を仰せつかり大恐惶いたし居候。

随感と一年の瞥見

岡崎小文

理想と現實との矛盾
助けんとして助け得ぬ悩み
愛を捧げんとて冷酷を散く我
一切がいやになつて投出さうとする時
澄みきつた月が
生命とうるほひをそゝぎ込んでくれる
理想が生きる愛がめざめる力が湧く、

○

黄な紙が黒板の上にあざやかな色を見せ
太陽にすかせると黒ずんで見える
ふとした人の口から洩れた言葉が
人生の哲理を私に思はせる
本質のみを目がけて居た私は
環境に順應する必要を感じさせられた
地上での光はよい背景を探すがよい
だが詩人はやつぱり本質を求める
天上の光に輝けばよいからだ。

一年の瞥見

大正十年は今や逝つて新しい年を迎へやうとして居る。顧る一年經濟界動揺の爲に幾多の犠牲者を出した年、ストライキの最も多かつた年三月中旬から四月中旬にかけての足尾の騒ぎをきつかけに五月一日のメーデー運動、五月上旬より八月上旬に至る大電ストライキ及阪神大罷業（罷業人員五六萬、家族を併せて十四五萬）八月中旬名古屋官業勞働ストライキ、九月より十月の横濱ドック罷業、十月上旬より

十一月上旬の東京石川島ストライキなどは其重なもので今迄の罷業と言へば一週間位で濟んだものが、一ヶ月以上もつゞくやうになり勞働者の自覺と進歩は著しくなつて來た。

數年前よりの普選運動は十一月上旬から大阪の勞働者を中心として今や盛に稱へられて來、政黨も勞働問題に眼をそゝぐに至つた。原首相暗殺の一大不祥事、高橋藏相の財政方針變更、更に新聞紙の三面報は、濱田孃の自殺、豊豪の暗殺、白蓮女史家出、隈畔氏自殺、胸驚かす事の多かつた年よ、目を學校問題に轉ずれば、義務敎育の二部敎授問題、藏前高工高師、明大の學校騷動など數へ來れば雜然たる大混亂東都では大地までが師走の月に大暴れをし爲に浸水の騷斷水の騷、しかし過ぎて來た困難悲痛は、よりよい世を生み出さうとしてゐる。物價騰貴は農商務省で過日開かれた世帶の會物價引落運動及新聞の運動で漸く下落に赴きかけた。石炭の不足に基く燃料問題は燃料研究所が七月頃開始され、生活改善同盟會運動も頭をもたげかけて居る。勞働組合公認、勞働保險は今や其途にある。日本勞働總同盟（友愛會に本年十月改名す）は組合同盟と共に双方の組會所屬八十八團體の幹部會を開いて來る廿六日關東大會を開催し軍備縮少から來る失業者續出の場合に狼狽せぬ用意をするとか。

敎育機關の不足は、七年制高等學校、武藏高等學校など大正十一年より開始される筈、學ばんとして學び得ぬ人にどれ丈か福音をもたらしてくれる、中學校も女學校も大學ももつと〳〵と增加してほしい入學難になやんでる人が幾多あらう。

十一月十一日から開始された華府會議も今やだんだん進んで英、米、佛、日四國協商も締結いよ〳〵成り、軍備縮少比率も先づ五、五、三の割合に定まつた。平和の光は紅の空から曙の光に輝き出さうとしてゐる。最後ながら尤も特筆すべきことは未曾有の

皇太子殿下の御外遊つゞいて畏ながら聖上陛下御不快の爲攝政の宮となられた事である。

人る年は逝く……個人の上に社會の上にキザミつけた足跡、人も自らも忘れてしまふかも知れぬ。しかし何處かに私は人知らぬ脳裏に描いた小さな思ひまでが永遠に消えない記錄（レコード）を作つてる事を信じる來らんとする大正十一年こその流は一轉回をなし、どんな勢でどんな姿をとつて流れるか知らん……他外ごとではない小さな私達の一人々が波となり渦となるのだ。清か濁か緩か急かさしゆく目標（みを）は大海原……より善き流、光榮ある新年を迎へ目標をさして勇しく進みたいものである。

國際社交部年報

ピ、エ、バートザル

一年中の仕事の總勘定を、とは編輯主任岡崎さんの御要求であるが日に月に後から〳〵と重なつて行く私達の興味ある仕事の連續を限りある紙面に洩れなく編み込んで讀者の一興を辱うする事はとてもこの筆者には覺束ない事である。

國際社交部の實際舞臺について一言すれば人も知らる丶彼の新渡戸稲造博士の宏壯なる邸宅の中で毎週一回又は必要に應じて幾回でもすべての社交的集會は催されるのである。勿論之に關して必要なる事務は責任幹事とその補佐ミス、クシダとが神田女子靑年會本部に机を構えて專心之に從てゐるのである。

此の部の目的となす所はその名の示す如く內外人が隔てなく交はる事によつて、國際的友情の增進を計り新來朝者及渡歐渡米者の便誼を計ることであるが事實今日までは日米親善のために全力を集注してゐたかの觀がある。然し或時には來會外人八名の中

に六ヶ國の國民を見出したといふやうな愉快なこともあつた。來客の種類はその時々の會の主意又は必要に應じてなす晩餐會、午餐會、懇談會、討論會又は結婚披露等その場合によつて異つては居るが兎に角この一年間にこの歡迎の門をくゞつて下すつたお客樣は一千人に近いのである。その大部分は何といつても日、米の婦人男子が占めるので之を休暇を除いて月平均にすれば米人四十九人、日本人八十五人といふ數を表してゐる。

今年は近年に稀しく多くの東洋視察の本部幹事や中央委員を迎へる事が出來た。二月初米國女子青年會集會部の幹事ミス、ヘレン、トマスを迎へたのを初めとして次月には米國女子青年會幹事養生所の舍監ミス、カロリン、ダウを、また最近には米國女子青年會總幹事のミス、マーベル、クラテーをいづれも短きは一週日長きは一月に近くこの歡待の家に宿する事が出來、無駄のない日本及日本人の觀察を遂げられたのである。

この外、教育家として知られたるホリヨクカレヂの教授にして中央委員の一人なるウーレー姉來朝の際は東京に於ける代表的婦人教育家十數名を招き午餐を共にし意見を交換し、大いに啓發せられる所があつた、次に多くの著書によりて我々も熟知してゐた米國ユニオン大學教授ホスデック夫妻を招く事が出來た事は我々の喜びの大いなるものであつた、殊にホスデック夫人は「私は歸國後も如何なる時も如何なる場合にもこの個人的友情の福音を純粹に口にし、善きも日本を招介し兩國間の親善に貢獻する考へである」との熱心な言葉を殘された程であつた。

ミセス、ロックフエラーの歡迎會こそ、我々日米當事者にとつても又それに招かれた人々にとつても實に興味深い努力の結晶であつた。夫人は米國に於て婦人のために益さん事に注意され、目下ワシントンに於て數百の部屋を有するホテルを計畫し、非營利的に旅する婦人を愛と親切とを以て慰さめん考へで居られる事を聞知し、この日招待した人々も東京

に於ける各代表的婦人運動、教育の第一人者を以てし、各々その働きの梗概を熱心に說明された。就中吉岡彌生女史はこの總ての過度期に於ける醫業に關する婦人の苦闘と貢献に就て、ミス、マクドナルトは犯罪人及免囚について、婦人矯風會のガントレット夫人は例の藝妓問題に關しての苦闘を我が河井道子姉は市に於ける女子青年會が若き學生の身心の啓發に、若き働き人の慰安になしつゝある事を述べられたのであるがロックフエラー婦人は夫ロックフエラー氏の共に來會されなかつたのを何度か嘆かれた程興味深く又熱心に傾聽された。

又我々の非常な喜悅であつた一つのことは中央委員の一人であるジエームス夫妻を非公式ながら我々の招待日の來客の中に數へ得たことである、其の日は新歸朝者ミスウエルス、吉田、田村、福岡四女史を中心として廿有餘名の來客あり非常な活氣を呈したキアプテンジエームス夫妻は其の自家專用のヨットに乘て廿五年前一度日本に來訪され此の度も亦其輕快なるヨットによつて此の地を訪問されたのである。此の夫妻を我々は次週に於て公式に招待する筈であつたが豈計らんや其の日開會前邸宅奥の間ストーブより出火折柄また開會の筈であつた幹部委員會は消防夫、巡査、瓦斯人夫、大工、車夫、等の右往左往し天井よりは時ならぬ黑雨の瀧と降る中に辛うじて食堂の一部に乾きたる一隅を見出して平和博に婦人休憩所開催の權獲得について重大なる協議をなすことが出來たが遂にジエムス夫妻歡迎の集りは取消の止むなきに至つた。

此のやうに長舌を弄することは編輯者岡崎さんの思惑如何と思ふがもう一言日米問題討論會について云はう。今春以來日米間の感情に思はしからぬ傾向のあることは來遊者の唇に上ることが屢々なので互に赤裸々に此の問題について討議し理解することによつてかゝる感情を一掃しこれに關して責任ある我々の立場と使命を一層明かにせんとの考へて其の第一回集會を帝國ホテル內に於て開いたのは今春のこ

とであつた、爾來ニトベ邸宅で三回を重ねてゐるが其うち一回はニユーヨーク日本人會の支配者ワーデン氏、印度都市計畫について英政府より任命されしダン氏及當時國際關係に關し講演の爲め在京中なりしスタンホード大學教授トリー博士等いづれも日米問題に關し熱心に述べられる處あり。又軍備縮少問題に關しては當の委員として派遣されたる石本男爵の意見を拜聽し、　東宮御渡歐の隨行員たりし五名の基督者の中の一人たる澤田氏は殿下御渡歐の一大目的となりし國際問題御觀察の完全に成功せしを喜び且つ最も赤裸々に殿下の御人格を讃め禁酒禁煙凡ての御行動御高潔に渡らせらるゝ殿下こそ實に未來の聖上國父として又現在我々の最も敬愛する御青年として我々の魂の底より敬慕し奉る君であると寧しろ熱狂的に述べられ、かくてその夜の集りは人の心に云ひ知れぬ愛と國際的に深い同情理解とを長く殘してくれたのであつた。

總ての社會事業も國際問題もつまりは個人の問題個人の意志に基因しなくて何とならう、我等の一重に切望する處は何れの國何れの市民が己れの魂に目覺め偏狹なる愛國心の煩を脱して赤裸々に思ふところを述べ例令五人六人の小さき會合に於ても眞に隣人を愛するの愛を持て互に理解し語り合ふべきであらう。同じ一ッの遊星（プラネツト）の上に住む人類としての吾々の思想に內的生活に『國』の隔てをおく事は淋しい事である。吾等小さいとは云へこの會に責任あるものは切に〳〵この點に於て暖かい友情の流るゝにまかせて助け合ひ、理解し合ひ高上し得る國際的家族の實現に深い〳〵使命を感じるのである。

（S・K 譯）

少女之欄

島の乙女

村岡花子譯

三

次の朝未だ薄暗い中にマーチは部屋の外から自分を呼び醒す澄んだ聲音に驚かされた。

「ミスター、マーチ、未だ御眼醒めぢやありませんの。どうぞ御返事なすつて下さい。」

「ヤッ、どうもおそくなつて申譯ありません。今直ぐに行きます。すつかり寢忘れちまつて。」と後の方は自分への獨言で、マーチは寢床の上に座り直つた。贅澤に慣れたマーチの身體には火の氣の無い部屋での早起は骨の節々に迄も染み込寒さだつた。かぢかんで動かない指先にやつとの事でマッチを摩つて石油ランプを點火して、ブル〳〵震へながら氷のやうな水で洗面を濟ませた。

三十分の後朝食のテーブルに着いた彼は何年振に經驗する空腹さで玉子とコーヒーの簡短な食事を歡迎した。

それから昨夜此の家の娘と帳簿の調べをした部屋の方へ行つて見たが誰も居なかつたので、其處へ彈丸の箱を開けて、彈丸の種類分けをしたり、獵服を調べたりして今日の用意を整へた。それが濟むと新しくシガアに火を點けて、それを口に銜へながら部屋中を一周して一つ一つの道具を眺めたりした。

時代後れになつた寫眞挾みの中に入れて飾つてある寫眞は多分ミス、ヘロルドの母親なのであらう。其の口元にも眼の邊りにも高雅な人品が偲ばれた。

ジムは此の母親の口と鼻とをそつくり寫して居るのだなとマーチは思つた。眼尻の心持上つて居る美しい姉の眼附は紛れもなく母に似てのものであつた

テーブルの上にはジムのラテン語の本と聖書とその他には去年の古雜誌が何冊か載つて居た。何心なくラテン語の教科書を開いて見ると開けて直ぐの所

に「ジムへ、父より」と錄してあるのが眼に入つた何故か其の手跡の何處かに見覺えがあるやうな氣がして、マーチは一旦閉ぢた書物を又開いてヂッと眺めて居たが、扨て何をも思ひ出す事は出來なかつた書物に見覺えがあつたのか、手跡に見覺があつたのか、或は何か其の書物に關連した事件を曾て自分が知つて居たのか、兎に角心に引き懸つて居る何かゞ有つたらしかつたのだが、いくら考へてもそれが何であつたかは一向に記憶に上つて來なかつた。

其處へジムが、色の褪せた、そして其の上に身體に合はなくなつて居る外套を着て入つて來た。

「ヤア、お早う。もう仕度はいゝのかね？」

「ハイ。出來ました。」

「如何だらう、今日の工合は？」

「どうも駒鳥日和らしいんです。」

マーチは一寸顏を蹙めて見せて、「そいつは堪らないな。君の姉さんも今日は駒鳥日和で、鳥はみんなほか〱天氣に浮かされて沖へ遊びに出ちまふだらうつて言つて居たがね、それでも愈々出掛けて見なけりや分りやしないやね。案外獲物があるかも知れないものね。」

「そりや然うです。」

「父さんはどんな工合だね？」とマーチは思出して尋ねた。

「矢張同じやうなんでせう、僕はよく知りません。」

「醫者に見せなくてもいゝのかね？」

「構はないんでせう。」

「一體何の病氣なんだい？ 熱でも高いの？」

「僕には分りません。」とジムは低い聲で答へて、先に部屋を出たので、マーチも其後に隨て戶外へ出た

未だ太陽は上つて居なかつたがぼんやりとした光が漂つて、周圍の物を映して居た。南手から西に掛けて一帶に松林が繁茂して居て、陰欝な影を作つて居る。東の方に向つて、拔き殘された去年の玉蜀黍が八九本立つて居て、海邊へ行く石コロ道は其處から始まつて居た。

「此の邊は畑にゃ隨分酷い土だが、ジム君。こんな惡い地は餘り他所にやないよ。」

「然うですかね、僕は此處より他に住んだ事が無いから分りません。」とジムは一向に氣乘りのせぬ返事であつた。

「ぢや君は北部の方の國を少つとも覺えて居ないかね？」

「エヽ、何にも記憶てません――中央公園丈けは覺えてるけれど……」

「君はニューヨルクに居たのかい？」

「エヽ然うです――父樣と」と言ひさしたが、フッと口を禁んで仕舞つてそれぎり後を續けなかつた。

二人は石の道を海邊へと進んで居た。マーチはあちこちと見廻しながら、「父樣の事を話しかけてたぢやないか。父樣がどうしたの？」と先刻の話の殘りを催促した。

「何でもないんです」と一旦は打消したものゝ、何となく自分でもぎごちなく感じたものであらう、ジムはその後を續けた。

「父樣と母樣と僕達はみんなニューヨルクに居たのて言はうと思つたんです。」

「君のおつかあさんは生きて居なさるのかね？」

「いゝえ。」

「客間に飾つてあるのはおつかあさんの寫眞なんだらう？ほんとに善さうな顏附をして居なさるねえ。」とマーチは靜かに、殆囁くやうに言つた。

「えゝ、ほんとに善いおつかさんでした。」

「もうずつと以前の事なのかね？」

「何がです？おつかさんの死んだのですか？エヽ、六年前です。」

「未だこつちへ來ない中の事だつたの？」

「エヽ、然うです。」

それから後は二人共無言で歩いて行つた。暫くしてマーチは思出したやうに言つた。

「誰か案内者は賴んであるだらうな。」

「エヽ。」ジムの答はいつも簡短だつた。

丁度此の時今迄の細い徑が終つて濱邊へ出て來た。マーチは案内者の姿を見出さうとするらしくあちらこちらに眼を配つた。

小船の後の方から人影が現れた、そして其の人は淺瀬傳ひに岸の方へ近寄つて來た。長靴を穿いて、獵着に出來て居る毛糸の帽子とコートを着けた細そりした姿の人はやがて砂地を歩いてマーチの面前へ遣つて來た。意外にもそれはモレイヘロルドであつた。

モレイは別に恥かしさうな樣子もなく、「父が御案内致す筈ですけれども身體が惡う御座いますので出來ませんし、ジムには未だ〳〵白鳥や、鵞鳥を扱ひ切れませんので、私が參りました。私の案内者ぢやいけませんでせうか？」

「いけませんかですつて？　どう致しまして結構です。唯、何だかあんまり仕事が荒過ぎるやうな氣がしてお氣の毒なやうに思へる丈けです。誰か雇つて下さる事は出來ないんですか？」

モレイの頬は赤くなつた。「そりや御入用でしたらいくらも雇いますが、あなたさへお厭でなかつたら私は馴れて居る事なのですから、何でもありません。」

「ぢやあなたが御自分で遣つて見度いといふ氣があるんですか？」

「若しあなたの方で御構ひがなかつたら、私は案内者の賃銀を自分で取り度いんですの。」と斯うはつきり答へた時には最早モレイの顏は元の平靜に返つて居た。

反對にマーチの方がまごつき出した。「エ、〳〵、そりや少つとも構ひません、僕の方は仕事さへして貰つたら可いのですから、あなたで結構です。

然しよく似合ひますね。僕は最初は男だと思ひましたよ。さあ、これから僕は何をしたら可いんです？」（つゞく）

大正十年中の本部概報

一月、本部幹事ミスペーヂは京都女子青年會に轉任新にジョルダン夫人横濱女子青年會外人寄宿舍主任として來朝。

二月、ミス、パーザル國際友誼部幹事となる。

ミス、レーガン大阪市部の幹事となる。

河井道子幹事渡邊百合子氏米國より歸朝。

三月、ミセスウード工業部創立の爲本部幹事として來朝。河井幹事關西に赴き諸々巡廻す。

四月、日米問題研究會を二日間開き志立哲次郎、植原悅次郎、吉野作造、河井道子諸氏の研究講演ありたり。渡邊百合子岡崎小文兩氏を本部に招聘す。

本部に加入せる東京學生部役員等終日協議會開催

五月、本部に加入せる横濱學生部役員等終日協議會開催。

河井幹事關西及び九州へ約一ケ月巡廻。

ニューヨーの幹事養生學校長ミスダオ來朝。

六月、大江壽子氏遠藤八重子氏本部委員となる。

本部幹事は東京帝國ホテルにて二回花賣をなし、中歐學生救濟の資に當つ。

七月、本部並に東京女子青年會、共同にて樂藝會を開き純益二千圓以上を得是を等分し東京市部と中歐救濟資金に當つ、

ミス、カフマン加奈陀より歸朝、

ミス、ダニング結婚式を本部幹事宅にて擧行す。

堀信子氏本部留學生として渡米、

八月、夏期修養會を御殿場東山荘に開催。

七人の新幹事を米國及加奈陀より迎ふ、

米國女子青年會總幹事ミス、クラテーの一行を迎へ東京市内の婦人敎育者十數名を招待す。

九月、女子青年會内外幹事會を箱根に開催。

細谷春路氏を本部に招聘。

本部幹事淺井治子氏大阪支部に轉任、

十月、河井幹事信州より北陸を經て關西に出張。

櫛田孝子氏を本部に招聘。

支那總幹事ミス、カパックの訃音に接す。

十一月、萬國祈禱に本部幹事支部を訪問。

本部、東京市部合併して祈禱會を催し内村鑑三氏の講演ありたり。米國富豪ラカフエロー夫人の爲本部幹事宅にて小集會を開き日本婦人數人より婦人事業を招介したり。

十二月、青木豊子外山信子兩夫人本部委員となる米國幹事の數名一ヶ月間を期して支那を旅行す五月より十二月十六日迄に於ける中歐學生救濟資金合計金參千八百七拾七圓貳拾四錢

大正拾年度本部會計

總收入金壹萬壹千五百七拾五圓八拾參錢也

總支出金壹萬四千六百八拾五圓九拾八錢也

差引不足金參千百拾圓拾五也。

外國幹事概報

一、本年の二月長い間待望んで居た工業部幹事米國女子青年會から來朝、夏休暇前の數ヶ月を東京並に近郊の工業狀態視察に費し女工の狀態を調べ雇主と知合、主として工業界の女工によい助をなし得る道を研究す。

昨秋開いた横濱の外人寄宿舍では横濱市で働いて居らるゝ女事務員だけでなく、こゝかしこに旅行さるゝ人もお世話す開始以來十七ヶ國からの百七十名の方々便利を得。

外國幹事は本年間に七人の新しい幹事を得五人は日語學校で研究をしつゝあり。一ヶ年以上日本に居た幹事達は三人は神戸に三人は京都に二人は大阪にそして横濱に三人と言ふ風に分遣され殘の者は東京にあり、東京女子青年會幹事、本部幹事及日語學校生徒、などのグループで人數に於ても大多數を示む。東京にては外國幹事指導の下にある體操科は有益であり且つ人々の注意を惹きつゝあり。東京及横濱に於ける實務婦人の間に今一人の幹事は日本人と共に働く此仕事はたゞクラブ丈でなく實務科の級が開始されだん／＼發展しつゝあり。

中歐學生救濟御寄附金（締切後の分）

金參拾圓也　前橋高等女學校
金五拾圓也（第二回分）　東洋英和女學校
金五圓也（河井總幹事に講演謝禮として御寄附）　横濱英和女學校

小計　八拾五圓也
累計　參千八百七七圓貳拾四錢也

本部會計報告

金貳拾五圓也（御寄附）　ミス、バードザル
金拾貳圓也（維持費一口）　野村美智子氏
金拾貳圓也（同上）　伊藤せい子氏
金貳拾五圓也（維持費廿五口十一月分）　河井道子氏
金貳圓也（同一口十一、十二月分）　勝部愛子氏
金百圓也（本部負擔金）　東京女子青年會
金拾貳圓也（維持費一口）　渡邊百合子氏
金壹圓也（同十二月分）　加藤高子氏
金壹圓也（同上）　三輪田亘子氏
金拾圓也（本部負擔金）　横濱女子青年會
金拾四圓也（同上）　同志社女學校
金貳圓參拾錢也（中歐兒童救濟の爲）　旭幼稚園
金貳圓也（クリスマス費用として御寄附）　靑山ひで子氏
金壹圓也（維持費一口、十二月分）　伊藤道子氏
金拾圓也（御寄附）　ミス、レーシー
金拾圓也（本部負擔金）　札幌女子青年會
金五圓也（維持費五口、十二月分）　松岡鎭枝氏
金拾貳圓也（同一口）　靜岡英和女學校

萬國基督敎女子青年會本部への負擔金

金五圓八拾錢也　廣島女學校、　金拾錢也　岡崎小文氏、　金拾錢也　櫛田孝氏、　金五拾錢也　河井道子氏、　金壹圓九拾錢也　中央委員會、　金拾七圓拾錢也　金城女學校、　金四圓五拾錢也　大阪女子青年會、　金八圓八拾錢也　祈禱會献金、　金四圓也　納戸町寄宿舍、　金參拾圓也　東京女子青年會、　金九圓八拾錢也　同志社女學校、　金八圓也　捜眞女學校、　金貳拾圓也　遺愛女學校、　金拾六圓也　福岡女學校　金參拾六圓四拾錢也　神戸女子青年會、　金八圓六拾錢也　東京女子大學、　金拾圓參拾錢也　横濱英和女學校、　金貳圓五拾錢也　札幌女子青年會。

東京基督教女子靑年會報告

商工部。有職婦人講演會。十一月十九、二十一、二十二日の三日間を政治問題に關しての講演會とし國民新聞社編輯長馬場悟吾氏に依賴す、外交、內政、思想と分ちて講演されしが歐洲大戰に序を起し我を忘れし愛に依るにあらざれば眞の平和は來らずその結論に至るまで、聞く者をしてその一句をも一言をも洩さじと熱せしめ、有益なる會なりき。

廿三日、スタークラブ蓄音器音樂會を午後二時よりと午後六時よりとの二回催す。

廿六日、日本銀行婦人從事員招待會を午後一時半より催す。一回は會員有志の餘興、共同遊戲に打興じ茶菓の後五時閉會す。出席數六十。

十二月三日、芙蓉クラブ主催にて午後六時半より音樂會あり、ミセスシーバーガーの獨唱、ミスマーレーのピアノ、八時半閉會。

十二月十日、有職婦人料理實習會午後六時より、坂本氏指導のもとに開く。

十二日、白木屋呉服店婦人店員招待會、午後六時より開く。夕食を共にするの豫定なりしが前日よりの斷水に俄に變更して茶菓とす、出席數二百五十、さすがの體操場も處せまきの感ありき。

十四日、午後六時半より「新聞に關して」と題する有益なる講演ありたり、文化運動の盛なる折から言論、輿論の王者たる新聞の內外に渡りての詳細なる部に言及されしは得る處多き會合なりき。

家政部。十二月十二日、月曜日午後一時よりテンピいらずのクリスマス、デイナー實習會を開く、來會者三十名。

十二月十九日、月曜日午後一時よりお正月料理實習會を開く、講師一戶伊勢子先生。

十七日、土曜日午後六時より家庭親睦會クリスマス祝會來會の申込數五十六名。

裁縫の組、其の需要多きためか冬になりても皆樣御熱心なり。

クリスマス諸集會。(一)十八日日曜日、午後二時、クリスマス禮拜擧行。逢坂元吉郎先生御話西洋人のコーラス及ヴァイオリン獨奏。(二)廿一日午後二時半諸組の生徒を中心に親睦的意味の祝會。(三)廿六日午後六時、會員及有職婦人を中心の祝會にて初めは河井先生の御話、後音樂等。

募金報告(自大正十年十一月九日 至十一月十五日)

總收入金　二萬五千二百九十五圓五十九錢也

内譯

日本人大口(五圓以上)(二百九十四名寄附者)

總計金二萬一千六百八十三圓五十錢也

内譯 現金壹萬八千二百〇壹圓也(二百六十名寄附者)
　　 約束金參千四百七十二圓五十錢也(卅四名)

日本人小口(卅錢以上)(五千名以上寄附者)

總計金二千壹百八十八圓〇九錢也

目的二千圓　越過百八十八圓〇九錢也

西洋人大口

總計金壹千四百廿四圓也

内譯 現金壹千貳百〇八圓也
　　 約束　貳百拾六圓也

出資額別

二千圓	一口	六十圓	一口	十圓	七十口
一千圓	二口	五十圓	卅五口	六圓	一口
五百圓	八口	三十圓	廿五口	七圓五十錢	一口
三百圓	八口	二十五圓	二口	五圓	四十四口
二百圓	十三口	二十圓	卅二口		
百圓	四十四口	十五圓	六口		

募金目標金貳萬圓也

超過四千二百九十五圓五十九錢也

橫濱女子青年會報告

○總會　十一月二十六日本會第五回總會を本會館に於て開く。當夜ミスクラテイの御話を伺ひ得し事ミススカット及び河井先生の御出席下されし事は本會の名譽とするところなり。出席者百三十名。本會館に於て曾て催されし最も美しきかつ最も意味ある集なりき。

○教育部　夜學部生徒のため西洋料理夜學の組を毎月第三金曜日に開く。東京女子青年會幹事坂本花代

姉教鞭を執らる。第一回の出席者十九名にして次回は二十五名位の豫定。

○クラブ。ルヰズクラブ。濱市訓盲院生徒をクリスマス祝賀會に招待せんとし其の費用のため十二月三日レコード音樂會を晝夜二回本會館に於て開く。純益六十圓餘。十二月十五日訓盲院生徒のためクリスマス祝賀會を開く。晝飯を以て始められ御話、音樂等に樂しく半日を送り本會々員の自働車により迎へられし生徒達は又感謝の涙の中に自働車にて夕刻送られぬ。

二、B、Gクラブ。從來のB、Gクラブは有職婦人クラブ(廿歳以上の者)及び有職少女クラブ(十九歳以下の者)に分たれ、河村久子姉有職婦人クラブ會長に國領歌子姉有職少女クラブ會長に推擧さる。

○クリスマス禮拜。十二月二十五日クリスマス禮拜を開き「キリストと其家庭」の題の下に室原會長の御話あるはづ。

○クリスマス祝賀會。本會クリスマス祝賀會は十二月十六日に催さる、當夜は歌、餘興等數種の後「最も美しきもの」のパアジエントを以て終るはづなり

○委員會。十二月十七日委員一同及び職員一同は本會外人幹事宅に於て晝飯を共にし食後引續き委員會を催し役員の選擧、各部の事業報告、將來の計畫等に對しての相談あるはずなり。

神戸女子靑年會報告

十二月八日夜御影レインボークラブ並に同地最寄集會の主催にて住吉小學校に於て兒童衞生規則幻燈會を開く同地會員諸姉の盡力により誠に盛會なりき

ミス、アームストロング指導のガールス、クラブ指導者養成の組は十五日を以て終結する筈なるが出席者一同多大の興味を持ちて研究しつゝあり、得る所大なりき。

萬國祈禱週には每日會館に於て祈禱會を開きし外平野方面、須磨方面、御影方面、熊内方面、原田村方面にても集會を開き其結果、新らしく須磨及び平

野に最寄集會を開く事となる。

來る十九日には基督教青年會と共同して湊川公園に於て市民クリスマス祝會を開く當日は賀川豊彦氏の講演ある筈にて聖歌は市内聯合聖歌隊の有志者が來援され、會場整理等は市内各教會の有志者これに當らるゝ筈。

なほ同日午後七時同公園内勸業館にてクリスマスパヂエントを催す。

廿一日には青年會館にて今一回パジエントを催し男女青年會の會員を招きて共にクリスマスを祝する筈なり。

京都女子青年會報告

十一月十九日のバザーの日は前日の雨に引替へ朝から好天氣にて九時開場と共に續々入場者がありまして正午から三時頃まで會館は身動もならぬ樣な有樣で夕方七時頃までの入場者は五百五十四名でございました。賣店の中でも料理組手製のキャンディや洋菓子其他お壽司甘酒紅茶等の飲食店もなか〱の繁昌でした。餘興としては同志社のマンドリンクラブが庭でマンドリンを演奏され又高松牧師の手品シヤイベリー氏令嬢等のフォークダンス等もございました。一同は豫想以上の盛況を見感謝に充ちて居ります。

當市に在住する朝鮮婦人（主に女工）方のため日本語を教へ又信者の日本婦人と交際する助をあたへるために十月から二ツの組を設けて居ります、同志社女學校御出身の山縣夫人が最も懇切に指導して下さいますのでいつも十二三人の婦人方が喜び樂んで集ります。毎度組の後三十分讃美歌を歌ひます、二十二日は特にこれらの婦人のためにクリスマスパーテイを催す考でございます。

當會はまだ女子青年會の赤坊で御座いますが大正十年度の略報告をいたしますと

會員數　三百人

教育部

英語組	生徒數	四十二人
洋裁縫組	同	十七人
西洋料理組	同	二十人
英語唱歌組	同	十四人
編物組	同	二十人
日本語組	同	十六人
總數	同	百二十九人

聖書組（三組）出席者數　三十人

幹事は會以外に學校にて三つの聖書組を受持つて居ります。　出席者數　百八

クラブ　クラブとは青年女子の品性を高め奉任の精神を啓發させる爲のものでありまして二十人或は廿人以内の人で形成されて居ります。

クラブの數、五

同　種類學生の爲め　三つ　看護婦　一つ

郵便局通信員　一つ

集會

二月　衞生講演會

1、肺結核豫防法

2、口腔內衞生法

3、小兒養育法

出席者數百五十人

四月　講演會

日本基督教女子青年會總幹事河井道子氏の講演

1、女學生大會　出席者數四百人

2、婦人大會　四百五十人

五月　米國基督教女子青年會々長たりし故ミスグース、ダッヂの紀念會　出席者數三十人

六月　クラブ大會

畠中博氏講演　出席者數五十五人

七月　朝鮮婦人等のためリセプション　出席者數二十人

十月　女學生に基督研究の奬勵

河井道子氏講演　出席者數五十四人

十一月　軍備縮少會議に就き

日高善一氏講演　出席者數五十人

集會出席者總數　一千二百〇九人

宗教講演會

一月より六月迄毎月三回西野貞子姉の宗教講演會を開きました　出席者數六十人

夏季修養會　七月御殿場で開かれました、女子青年會修養會に出席したる當會代表者　六人

朝鮮婦人に對する働

京都市内に在住する朝鮮婦人は一千人の多きに達して居ります。會にては日本語を敎へ又基督敎信者の日本婦人と接觸する助を與へるために十月より二組を設けました。

會館　十月一日一條通室町西入北側に移轉。

バザー　十一月十九日に會館でバザー開催、

入場者　五百五十人

純益金　五百八十圓

大正十一年度豫算高　金三千圓

以上

靜岡英和女學校女子青年會報告

春去り夏去り秋も早やさりましてとう／＼クリスマスの月になりましたそして長いと思ひました三學期もあと少しのみになりました。

今學期は私共の學校で皇太子殿下が長い御旅行を御終らせ給ひ國光をなほ／＼輝やかさせ給ひし事を記念とする建物を建るために十月十七日にバザーを開きました。其の爲私共女子青年會の會員は一心に働きまして同窓會の御助けをする事が出來まして誠にうれしう存じましたこれもすべて神に祈り心をあはせて致しましたから神が御惠を下さいました事と信じて居ります。

十一月十日にとくに傳道の先生を御呼び致しまして宗敎部の御集りを致しました、其の折正しく善き指導者なるキリストにすがりすべての人を愛さなければならない、又世の中には僞のかぶり物を着て居

る人が多くございますから其の破壞者にならなければならないとの御話を聞き私共は大變に感じました又十一月二十四日に誘導部の御集りの時第一に愛の業をなし第二にたがひに助けあふ事第三に人の德を思ひます事の實行をする事をすべての會員が約束致しました。そして其の事が花を咲かせ實を結びよい種をまく事を祈つて居ります。

又すべての相はなれて居りますが女子青年會の會員の方々が善いクリスマスと新しい御年を御迎になる様に祈つて居ります。

廣島女學校女子青年會報告

主の御降誕の日も近づきました。青年會の皆様もお喜びの事と存じます。我校の青年會は非常に惠まれて會員こぞつて働いて居ます。學校になくてならぬ有要な機關となつた事を感謝して居ます。

吾青年會は去る九月から少々方法を變更しまして全部の會員百九十五名の内を三部に分ちまして、それぞれ自分の部の爲に活動する樣にいたしました。その部は奉仕部と文化部音樂社交部とです。

一、奉仕部

仕事部を改名したので此の部には特別に會計、書記を部長の外に定めて居ます。財政をも兼ねて居ます。先日晝食の支度を開きまして大成功でした。來るクリスマス前にはバザーを開いて市内貧民救助にあてんとして忙しく準備中です。

二、文化部及音樂社交部

生徒間の靈的方面の責任を擔つて居ます。目下金森通倫氏の著作「信仰に入るの道」を市内各病院の患者に分たんと努力中です。音樂社交部と行動を共々にして居ます。特に音樂部では種々の禮拜の全責務をとげて戴いて居ます。來る日出來得るなれば慈善音樂會を開會しやうとの心算です。

學校に於て日曜日の禮拜は青年會より擧行して居ます。音樂の方はミス、スチエイーブンスの御指導にて極めて美妙なものです。

尙會員諸姉の興味を增す爲に種々の面白い有益な方法で各部の集會を開きます。來るクリスマスには盛大な祝賀の會を開く積りです。

皆樣が此の廣島の地にある私共會員の努力をお祈り下さいます樣にお願ひ致します。

上田女子靑年會報告

信州の女から勤勉の二字を取ると價値が無いと言はれたそうですが實際四月中旬頃から十一月初旬まででは三期の養蠶に引きつゞき農事の收獲を見る迄では休む時が無い樣です從つて月二回の例會にも會員が揃ふて出席する事は稀であります、出席平均は十數名です、(全會員の半數)每會卽ち第二第四の土曜日の一時間は宗敎的のお話があります、殘る一時間を仕事しながら雜誌を開くとか或るはレコードを聽くとかして樂しくしかも意味ある樣に過し度いと努めて居ります、又時には幼稚園の廣場を借りては體育の方面にもいそしんで居ります。

十月の初旬には河井先生のお出を忝うして大きな集會を三ヶ所に開く事を得市民の爲め幾分盡くせしを一同深く感謝して居ります。尙會員丈け一時間以上も時を費やして熟談下され大に勵まされ力つけられました。

十一月中旬一會員の主に在つて美しくしかも雄々しく永眠されし樣にお兩親が何物か暗示を與へられて以來此の宗旨に心を傾けられし事、ならびに敎會にて行はれし葬儀の際も會員一同の厚き思が現はされて集へる人々に深く印するところありたる事など思ふて大によろこんで居ります。

來るクリスマスには市内の盲人を招きてともにお祝ひ致し度いと目下一同其の爲めに力を注いで居ります。之れが主に依つて祝福されん事を。

斯くして小さき群も亦祝されつヽある事を感謝して勵んで居ります。殊に同縣内の長野に新しく靑年會の生れ出でた事は私共の力となる事を信じてよろこんで居ります。

消息

□ミスレオナ、スコット　本部幹事の同氏は十九日發支那上海に赴かる一月十五日頃歸京の筈。

□ミス、パードザル　本部幹事の同氏は十七日發にて支那に向はる神戸にて同じく本部のミスアームストロング及横濱のミスアーレンと共に支那に行き寒休みの間滯在同地視察にて渡佛せらる。

□三浦節子氏　十一月下旬神戸解纜の鎌倉丸にて渡米せらる。

□石川せつ子氏熊本師範にあられし氏は此度御目出度く木船氏となられ福岡に御住ひの由。

□松田光子氏　藤澤氏と結婚せらる。

□川上チカ子氏　東京青年會々員の同氏は去月死去せらる謹しみて哀悼す。

□ミス、リイーピイト　伊國ネープルスにありし氏は伊國は勿論其他の地の萬國基督教學生同盟會の爲に非常なる貢献をされしが今回休養の爲歸米さる。

□宗像正子　氏十一月男兒御出産壽敬と命名さる。

□中央委員　外山信子靑木豐子二姉を加ふ

□森戸和子姉　十二月二十三日獨逸に出帆せらる。

□故植村惠姉　十二月十四日富士見町教會にて同姉の記念禮拜ありたり。

□新歸朝者　吉田信子、ミスウエルス、田村ますゞ子、福岡やす子姉等の爲茶話會を開く。

□河井幹事　横濱市女子靑年會、英和女學校、東洋英和女學校、矯風會外國人部、學生協會（佛教）等にて講演す、十二月中旬關西に赴く。

□大平耕成兄　本會の同情者なる同氏は今回門田美喜姉と結婚せられ門田姓を名のられ支那秦皇島に住居。

□佐藤いよ姉　以前大阪女子靑年會に奉職されし同氏は今回九州大分縣下にて立花高木兄に嫁せられたり。

□ジエスル氏　新聞紙上に快遊船にて世界一週する米國富豪として掲載されたる同夫妻は本部、支部を親しく訪問し本會の將來につき助言を與へられたり。

□安孫子よな姉　米國桑港女子靑年會其他に活動せられたる同姉は夫君と共にワシントン會議に臨まれ、後米國東部遊歷のため數ケ月を費さるゝ由。

□渡邊百合子姉　長野縣下靑年團修養會の招待にて講演されたり。

□菊池歌子姉　夏期修養會中決心者の一人なる同氏は十一月十七日富士見町教會にて受洗

□宇仁田篤姉　同姉も決心者にて十二月二十五日銀座教會にて受洗。兩氏の御將來を祝禱す

□守屋東姉　矢島先生と同伴されし同氏のため紐育女子靑年會本部は大歡迎會を開き兩姉の御宿をなすを喜ぶとの報來れり。

□靑山英子姉　昔よりの關係者なる同姉は本部クリスマスの爲とて御寄附金を送與せらる感謝に堪えず。

□矢島楫子氏　華府會議の爲に目下米國にある女史は神戸女子靑年會のミスタヒングの御母君の通譯にて諸所を訪問され居らるゝ由。氏は八十九人中の一人として渡米したる理由を述べて曰く

一、華府會議は世界平和の基礎たる事を信ず

二、我々日本婦人は戰を好まず眞に心より平和を望む者である。

三、神を信じ平和を愛する者は手を取り合つて此世を神の家とする爲に盡すべきである

四、私は幸に米國に信仰も主義も二つながら同じうする多くの友人を有す。

是等の理由の下に私は役目からでなく國の代表者でもなく、自由の個人としてお國に來ました。

私は過去三十五年間日本女子矯風會の會長として世界平和、世界廓淸　世界禁酒の爲に働きました。

世界に多くの友人を持ち、三度もお國を訪れる事が出來る主の祝福による健康を有することは日本の最も幸福な女の一人であると存じます。私は自國語の外存じませんが神はあらゆる語學に通じ給ふ事を知ります故にお國の姉妹方と靜に祈る爲に參りました。神は二三人集りて祈る所に吾も居らんとお約束下さいました。日本の國の男女が私を送り彼等の祈によつて私をさゝえてくれます。

世界の平和の爲に祈りませう」

Miss Chappell's cooking class have re-registered en masse for the winter term, and the popularity of the domestic science department is reflected also in the Saturday morning Club group of foreign women who gathered at the Y. W. C. A. on December 13th to learn how to make Christmas candies and cakes. Miss Chappell and Miss Field of Kobe College were demonstrators.

Much time has been spent this month on the preparation for the Community Christmas, which is to come on December 19th at 6PM. in Minatogawa Park, just above the Theatre District. The Y. M. C. A. and Y. W. C. A. are cooperating in a joint committee to prepare for this. The Union Church choir will sing, Mr. Toyohiko Kagawa will interpret the meaning of Christmas in a brief address, and Christmas cards, of which five thousand are being printed, will be given away. The cards contain a message about Christmas prepared by Mr. Kagawa. At 7 o'clock the Pageant will be given in the Kagiokwan, the City auditorium in the Park. The interest centers around the Christmas Tree to be set up in the Park. lighted and decorated.

The Pageant will be repeated on December 22nd in the Y. W. C. A. auditorium.

JANUARY TO DECEMBER 1921.

Number of mombers 300.
Educatioual Classes... ... ... term
English ... ... 42. students
Foreign sewing ... ... 17.
Cooking... ... ... 20.
Singing ... ... 14.
Knitting... ... ... 16.
Total ... ... 129.

Bible Classes
At the Associatson Classes ... ... 3. enrollement ... ... 39.
Taught by secrotaries in schools ... ... 3. ... ... 100.
130.

Clubs :—To develop girls in charactor and service, clubs are formed with a membership of 20 girls or less.
Number of Clubs ... ... 5.
Kinds of clubs ... ... 3.
Post Office Club ... ... 1.
Nurses Club... .. .. 1.
5.
Total enrollment ... ... 70.

Meetings—
February ... ... Health Work ... ... 3. lectures... ...Tuberculosis, Teeth, Babies.
Attendance... ... ... 150.
April... ... ... Addresses by National Secretary. Miss Kawai
1. Student Meeting ... ... 400.
2. Womens Meeting... ... ... 450.
May ... ... Meeting in memory of Miss Grace Dodoge. ... ... 30.
June ... ... Club rally. Address by Mr Hatanaka ... . 55.
July ... ... Reception for Korean women... .. .. 20.
October ... ... Talk on Bible Study to Students.. ...Mr Hidaka... ... ... 50.
Total attendance at special meetings ... ...1209.

Summer Conference. The National Young Womens Christian Association of Japan holds a Summer Conforence each Summer to which delegates are sent from the local Association. 1921 delegates from Kyoto Y. W. C. A. ... ... 6.

Work for Korean Women. (There are 1000 Korean wonen in Kyoto... ... ... mostly working in factories)
The Association stared two classes in October to teach the Japanes language and to help Korean women to get in touch with Christian Japanese women. Enrollment ... 17.

Bazar. ... ... In November a bazaar was given by the Association. which 500 women and girls attended. 580 yen was made toward the budget of 1922.

Association room ... ... The Association moved on October last to new headquarters at Ichijo, Muromachi Nishi Iru.

Budget for 1922. ... ... Yen 3[illegible]

1w6th. A program of Christmas carols, stories and a real Santa Claus, will close with a Christmas play written especially for the occasion. Every one who comes has been asked to bring a ten sen gift so that Santa Claus will find a gift on the tree for everyone.

Christmas festivities will continue all through the following week, and will close with the Christmas Vesper Service on afternoon of Christmas Day at which time Mrs. Murohara will speak on the subject- "Jesus and His Home''.

The Board of Directors will hold its regular December meeting at the home of the foreign secretaries at 2032 Minami Ota-machi. They are to come for luncheon and afterward have their business meeting. All of the secretaries will also be present, and will give a short report of their work and of its greatest need.

The Board members will hold their annual election of officers. Mrs Shimizu and Mrs. Yamaguchi of Kamakura, and Mrs. Makino of Kanagawa are new members on the Board of Directors. At the December meeting they will be formally welcomed to the fellowship of the Board.

The Business Girls' Club recently effected the division which has been long and carefully considered. Hereafter all girls under the age of eighteen years will be members of the Business Girls' Club, and those over that age will be members of the Business Women's Club. Miss Uta Kokuriyo is President of the Business Girls' Club and Miss Hisa Kawamura is President of the Business Women's Club. Miss Chio Narita who has been President of the original Business Girls' Club and who has been a constant help in the Association since its beginning is soon to move from Yokohama. We feel that the entire Association suffers a loss in her going, from which it will be hard to recover.

KOBE

The good beginning which the Neighborhood Clubs secured in November, during the Week of Prayer, was followed up by the first committee meeting of November 29th, and a series of club meetings in December as follows:

December	5th	Hirano Club
"	8th	Mikage Club
"	9th	Harada Mura Club
"	"	Suma Club
"	1[illegible]th	Kumochi Club (a new one)

Some calling and planning has been done towards the starting of a Central Club, which will have its first meeting on January 20th, being addressed by Mrs Wm. Merrill Vories. The Modern Health Crusader Japanese Slides have been received from Mr. Olds of Okayama, and were used at the Mikage Club meeting, which was held in the Shogakko auditorium and attended by children as well as mothers. The other club meetings in December took the form of a cooking class, an English class, a sewing circle, and a health study group.

Miss Armstrong's club leaders' training classes have kept up a sustained interest and attendance, and have now practically finished their work. Miss Chappell is to do girls' club work chiefly from now on, and has already started a Girl Reserve Club of girls from the Prefectural High School, working with Miss Armstrong. A beginning has also been made toward starting another club among girls of the morning English classes at the Building. We are hoping for much from the development of this department of work for teen age girls. We are very grateful for Miss Armstrong's work and presence in Kobe.

1000.00	2	25.00	2
500.00	7	20.00	32
300.00	8	15.00	6
200.00	13	10.00	68
100.00	43	7.50	1
60.00	1	6.00	1
50.00	35	5.00	43

Mr. Baba, editor of the Kokumin Shimbun gave a series of three lectures this month on current political matters.

Miss Kato and Miss Robertson attended the Initiation Service at St. John's Club, of St. Luke's Nurses' Training School. Twenty three of the new students who entered the course this fall were initiated as members of the club.

Two parties were given this month to groups of girls from the Bank of Japan and the Shirokiya Department Store, numbering fifty and two hundred and twenty five respectively, most of whom came to the Association for the first time. The girls enjoyed the foreign supper, and entered into the games most enthusiastically.

A musical programme by Mrs. Seeberger and Miss Murray was given under the auspices of the Fuyo Club to raise money for Christmas social work among poor children. A little over Yen 70.00 was realized.

YOKOHAMA

It was a great privilege to have Miss Cratty, Miss Scott and Miss Kawai attend the Annual Meeting of the Yokohama Association. It was, in every way the best Annual Meeting which we have ever held, and because of it we feel encouraged in beginning the work of a new year. More than a hundred Association members sat down to supper together, in the Educational Class Rooms on the third floor and with quite a large number of people coming later, the Assembly room was over-crowded for the meeting.

The Louise Club gave an inspiring example of ability to carry the work of their group on their own initiative, by giving a Victrola Concert for the purpose of raising funds for their Annual Christmas party to blind children.

A Victrola was loaned by The Nishikawa Music Company, and records were borrowed from interested friends. More than sixty yen was cleared. Mrs. Payne and Mrs. Isaacs gave the use of their automobiles for bringing the blind children to the Building, on Dec. 15th and a real feast was spread before them. They have come to look forward with great eagerness to these parties which the Louise Club girls give them twice a year.

The Tokyo Association has very generously loaned Miss Sakamoto to the Yokohama Association for a Class in Foreign Cooking for Business Girls. The class meets once a month. At the first meeting nineteen enthusiastic members were present and there will doubtless be a larger attendance at the next meeting.

Miss Allen will be in China for the Christmas holidays and for this reason a part of the Christmas festivities have been planned early. The party for Association members will be held on Friday night, December

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN
(JOSHI SEINEN KAI)

Volume 19 | January 1922 | Number 1.

NATIONAL

In this last issure of the year, it will probably be of interest to readers in the United States to have a brief report on the work in Japan which is the special interest of the Foreign Staff.

Early in the year, our long-hoped-for Industrial Secretary arrived, from the American Association. She spent the months until the summer vacation, in and around Tokyo, trying to learn all she could about industrial conditions affecting girls, getting acquainted with employers, and, in general, seeking the channel through which we may be most helpful to girls in the industrial world.

The Residence in Yokohama, which was opened last Fall, continues to serve the needs, not only of business women employed in that city, but also of travelers going to and fro. Since its opening, 170 women frome 17 countries have availed themselves of its hospitality.

The Foreign Staff has received within the year seven new secretaries, five of whom are in Language School, while the secretaries who have been longer than a year in the country have been so distributed that there are now three in Kobe, three in Kyoto, two in Osaka and three in Yokohama, the rest being in Tokyo where the residence of three distinct groups-the Tokyo Staff, the National Staff and the language students-will always concentrate the greatest number.

In Tokyo the physical work under one of the foreign secretaries, is proving itself useful and attractive to the girls, while another secretary is carrying on, jointly with the Japanese secretaries, work among the business girls in both Tokyo and Yokohama. This work is not only in the clubs but classes in business subjects have also been organized and are meeting with an encouraging response.

TOKYO

The Finance Campaign closed with reception to all the contributors on the third of December at 14 Kita Jimbo-cho, during which the pageant given the week of the campaign was repeated.

The total amount raised in cash and pledges was Yen 24,395.29, and of that all but Yen 3427.20 was in cash. The amount raised by the girls in the different departments of the Association, the dormitories, Bible Classes, and clubs, by means of the Blue Triangle receipt books, in small gifts var ing from sen thirty to sen fifty, was Yen 2181.79, and represented between four and five thousand givers. The gi s from the Japan Women's University alone raised over three hundred Yen. Excluding the former amount and the Yen 1421.00 raised by the foreign team, the remaining money was given by 238 contributors. The amounts were as follows:

Amount	No. of Contributors	Amount	No. of Contributors
Yen		Yen	
2000.00	1	30.00	25

新刊紹介

十字架の人 ウエスレー（村岸清彦著）

著者の言を借つて言へば英國の時代の要求が生んだ一偉人、精神的破産から其國を救はんが爲に起へた靈化運動の先驅者、涸渇し果た宗敎と道德との曠野を潤ほす靈泉、燃ゆる靈火となつて風敎地に墜ち人心頽廢紊亂の世を淨化した宗敎的熱情者、超越神論の偏理主義に對峙して純にして燃ゆる情緖と經驗に立脚す意志とを與へ情意本位主義を樹立した否復興した第二宗敎改革者の生立、性行、事業を十九章に涉り三百七十餘頁に納めたものである。

内容

著者はウエスレーの人格と其メソヂズムとが我國現代の社會に最も適當剴切なるを感ぜられ敎務多端の中にも至情止み難いものあつて本篇を公にされたものである。純宗敎の熱は至る處に溢れて居る純眞な深刻な生命に燃ゆる人を仰ぎ見んとする人の爲に本書を勸めることを躊躇しない。十年十一月十日發行二十日再版讀みたい人の爲に

定價　壹圓九拾錢

東京神田區表神保町十番地

發行所　春秋社

振替東京二四八六一番

近刊豫告

村岸榮子著

「平和の勇士」

本誌にいつも御執筆下さる榮子先生が今度關文協會から出版さるゝ由

備考

一御注文は一切前金に願ひます
一御送金は振替でお拂込み下さる事が便利で安全です。但手數料一錢をお加へ下さい。郵便切手代用は一割增

振替東京二三七二三番

定價郵税共	内地	海外
一部	金貳拾錢	金貳拾貳錢
一年前金	貳圓	金貳圓參拾錢

廣告料		
一行	金五拾錢	
四分一頁	金五圓	
半頁	九圓	
全頁	金拾五圓	
年極又は回數により割引有		

大正十年十二月廿八日印刷納本
大正十一年一月一日發行

神田區錦町一丁目十六番地
發行兼編輯人　河井道子

東京市芝區櫻田和泉町七番地
印刷人　前川吉治郎

右同所
印刷所　三成舍

神田區錦町一丁目十六番地
發行所　日本基督敎女子青年會
電話神田三六五二番
振替口座東京二三七二三番

哲學概論

専制主義貴族主義のドイツ哲學は破産し、絶對主義論理主義の形而上學は破滅した。今や哲學も實際經驗の鍛冶場に走り勞働の膏血に洗禮され、民衆文化の琴線に觸れたものでなければならぬ。著者はヘエゲル派の哲學に養成されてロッツエの人格主義に走り、轉じて實際主義の堂奥に參し、今や進化論的生命主義の哲學を提げて吾が學界に呼號し、傳統哲學の迷妄を破つて新哲學の曉鐘を鳴らしつゝある。本書は早稲田大學に於ける講義の概要であつて、簡單平明、尚哲學の各部門に亙つて在謂問題を取扱ひ一々明快なる批判を試みてゐる。加るに行文流麗、何等澁晦の跡なく。文壇の新人たる著者の面目躍如たり。單に初學者の入門として適切なるのみならず、新哲學の概觀として稀有の名著である。

帆足理一郎著

七版

菊版天金布製函入 四百五十頁索引付
定價四圓五十錢
郵稅拾八錢

慶應大學教授
文部省檢查委員 稻垣末松新著

美學汎論

▼菊判天金六百廿頁 □定價五圓八拾錢 稅廿七錢

本書は獨逸の「テオドル・リップス」氏の透徹精緻なる美學上の理論をば流暢明快にして殆んど日本文を讀むと異ならない樣に稻垣先生が講述されたるものにして、美學に關する敍述の精細なる事本書の右に出づるものなし。此の故に哲學藝術を究むるの士は勿論の事、苟くも現代に於て文化生活を語らんとする人の座右に缺くべからざる基本的寶典なり。

■教育哲學概論（デュウイー著） ▲定價五、〇〇

發兌元 東京市麴町區隼町廿番地 振替口座東京二〇九一四 洛陽堂 （電話九段九六九番）

ウオルタア スコット

湖上の美人

〔新版〕幽邃神秘なる蘇格蘭高地キャトリン湖上に白百合の如く麗しくも、浦く咲き出でたる絶世の佳人に、國王、追放の貴族、高地の酋長、豪族等を配し、戀愛と野心と武俠との痛烈なる葛藤悲劇は綿々として盡きざる一大叙事詩となつて、奇しくも、美しく讀者の眼前に展開す。原作者は沙翁、ミルトンに次ぐ近代英文學上の一大偉人として誰れ知らぬ人もないであらう。譯者は玆に流麗なる現代口語文を以て全譯し世の文學愛好者に贈る。

馬場睦夫
藤浪水處 全譯

四六判 布製函入 五百頁
挿畫十二枚入美本
定價三圓五十錢稅拾四錢

□馬場睦夫譯

ボードレル詩集 **惡の華**（二版）

▲定價二圓五十錢

基督に倣いて

トマス・アケンピス著
中山昌樹譯

四六判四百五十頁布製
定價參圓稅十四錢

古今東西に亘りて偉大なる人物の深刻なる靈的體驗の記錄は其數少からずと雖も、其中にありて嶄然頭角を顯はし、歲月の進むと共に愈光輝を增し加へゆくは聖アウグスチヌスの懺悔錄と本書とである。此の二書は實に世界を通じて信仰修養書の双璧である。トマス、アケンピスは七十年の長日月を修道院の一僧房にありて孤獨と沈默とのうちに籠り密室の祈禱と瞑想とに浸り、徹底的に內面生活を辿つたその怖ろしき迄に高く且つ深き信仰經驗を記したのが本書である。我等は本書によりて確乎たる永久の基礎を得ねばならぬ。

發兌元 東京市麴町區隼町廿番地 振替口座東京二〇一九一四 洛陽堂 （電話九段九六九番）

最新刊

ペリイ原著 □ 村岡花子譯

花咲く家

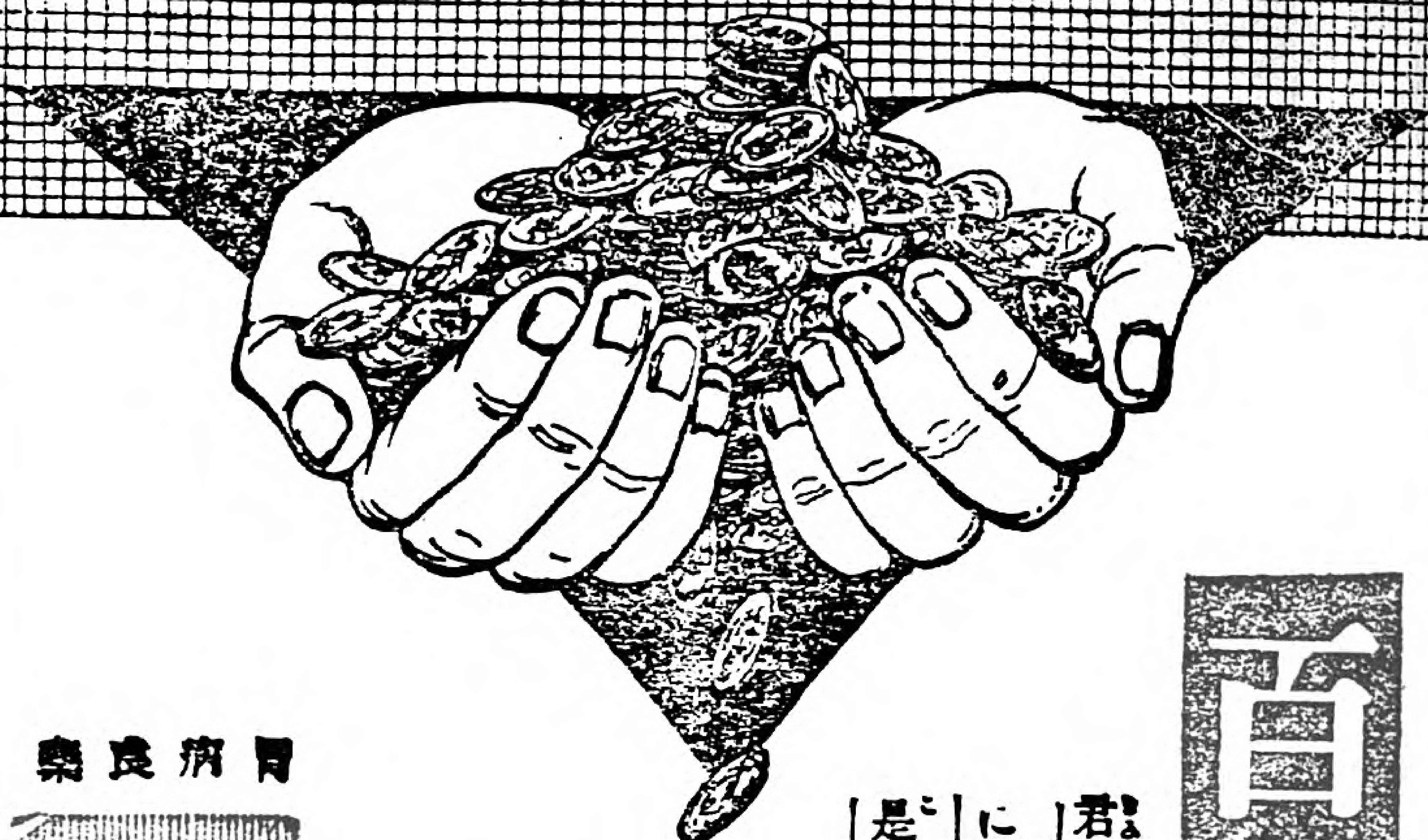
戀と生活問題とを同時に考へねばならなかつたのが此の物語のヒロインの運命でした。悲戀の痛に咽びながらも人として社會奉仕の本分を忘れぬ乙女に配するに天眞爛漫花の如き幼子の友情それは恰も涙と笑の二色糸もて織り出した模樣で眺めるやうな感銘を讀者の胸に植ゑ付ける事でありませう。

郊外靜やかなる邊に今彼女自身の『花咲く家』を營んで居る譯者は處女の日の夢を記念すべく此一卷の物語を世の若き女性方に献げたいと言つてをります。

■四六版背布製■
■挿畫凸版二葉■
■定價一圓五十錢■
■送料二十錢■

新春・爐邊・の好・伴侶・

□ 東京銀座 警醒社書店 振替東京五五三番 □



百萬圓でも

君の強健な其の胃の腑を百萬圓出すから僕に賣つて呉れ給へ……と言はれた處で是ればかりは出來ない相談。けれども玆に良法あり、金廿錢を投じてホシ胃腸藥を求め常に服用試みられよ。如何なる胃腸の患も直に治つて百萬圓でも買へない強健な胃腸に忽ちなれる

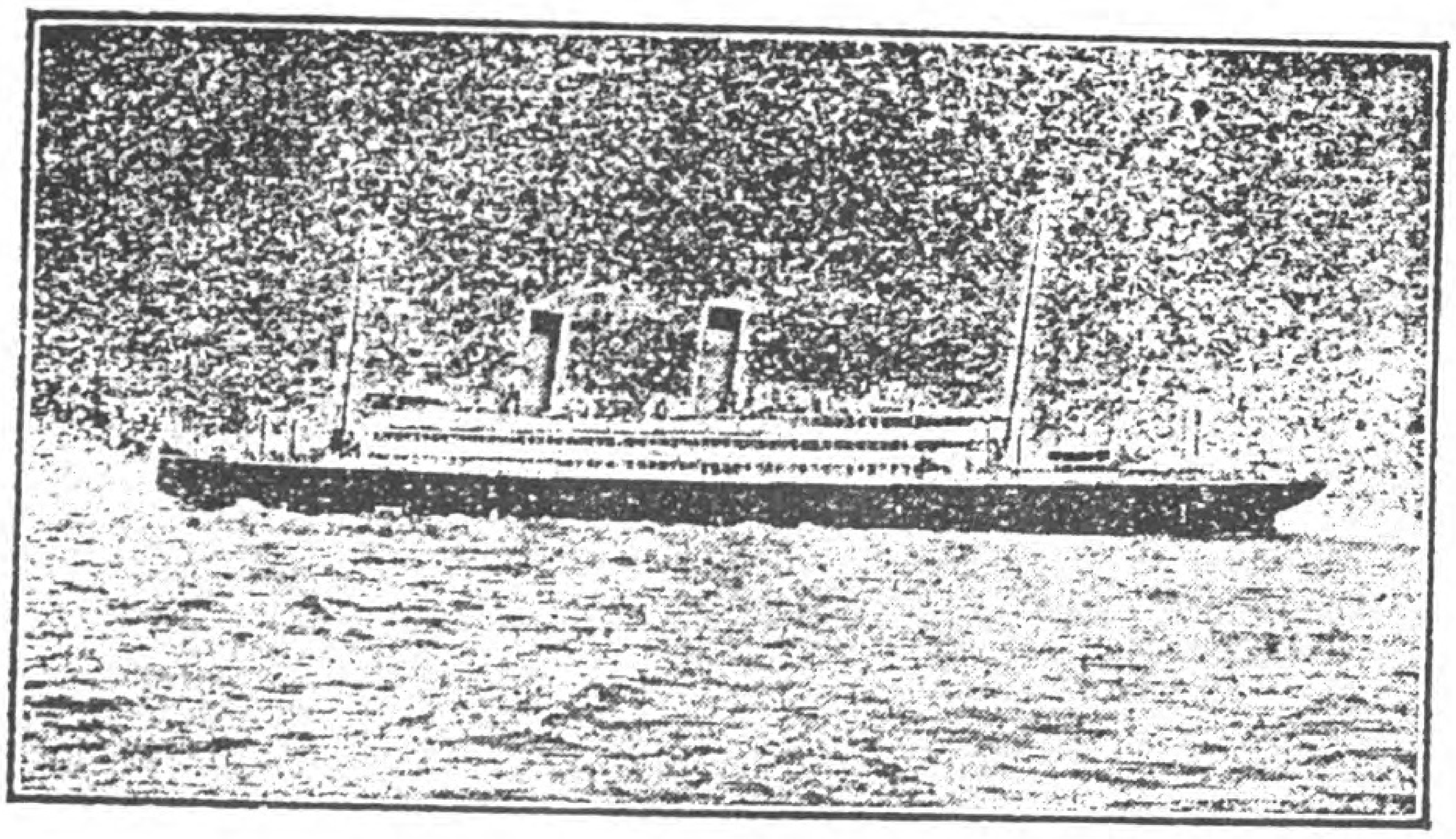
▲定價 金五十錢一圓 試用金廿錢▼

胃病良藥

ホシ胃腸藥

東京京橋南傳馬町 星製藥株式會社

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所 横濱市山下町五番（電話本局四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所 神戸市海岸通七番地。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス。ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六五二、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルデング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。

北米航路（桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

大洋丸		排水量 二二、〇〇〇噸
天洋丸	さいべりや丸波斯丸は往	同 二二、〇〇〇噸
春洋丸		同 二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	復共大連に寄港す	同 二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	大連航路の観なり	同 二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同 九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量 一八、七〇〇噸
銀洋丸	同 一六、〇〇〇噸
樂洋丸	同 一八、五〇〇噸
靜洋丸	同 一四、〇〇〇噸

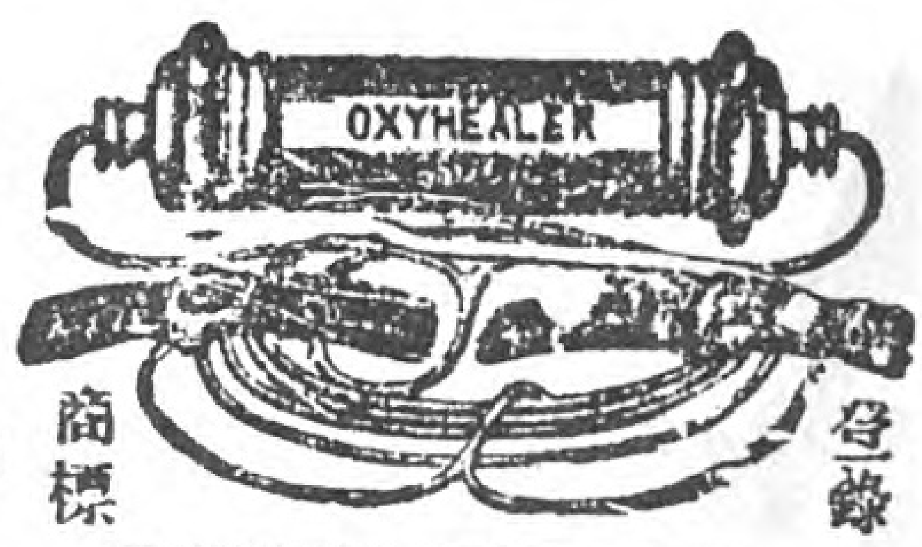
各寄港地及各國樞要都市に代理店の設備あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

◆其實驗說明書の發行十六版を重ね◆

本器は會主前島震太郎の創製にして江湖に提供して以來八箇年

▽邦文 支那文 治病實驗例附說明書贈呈△

酸素療器



オキシヘーラー

▼オキシヘーラーの效力顯著なる事は使用僅か五分間にして三乃至五m.mの血壓を亢め一時間を繼續せば實に十乃至三十m.mの活力を增進す試に血壓計、脈波計を以て驗せば其調節の狀を明にし各自は脈搏呼吸、體溫の整調に依て自覺せらる

▼靈妙なる磁氣應用の本器は斯して血液中の酸素吸引力を增大し健康の元素を補ふが故に難治の疾病を根治するに空前の偉力を有す論より證據使用者は忽ち脈搏强實となり全身の溫暖、呼吸の深長を感じ次で熟睡、解熱、鎭痛、食慾の亢進、兩便の快通等生理的本能を回復するの神速なるは實に天下の奇蹟なり

特色（使用法簡易効力永遠不滅にして電池の如く消耗するものにあらざれば器械購入以外永遠に何等費用を要せず

■正價金參拾五圓■

送料 內地金參拾六錢 支・朝・臺・樺金六拾五錢

愛用者實に數萬を算して信用愈々確立決して他の模倣を許さず

東京市牛込區神樂町一丁目一番地

◇オキシヘーラー奬勵會◇

電話番町長三〇七・四六八九・振替東京二七七一二

女子青年界第拾九巻第壹號（毎月一回一日發行）
大正十年十二月廿六日印刷納本大正十一年一月一日發行明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

一部定價二十錢